

コマツ
2020年度 第2四半期(中間)
決算説明会
【電話会議】

2020年10月28日(水)

コマツ出席者

代表取締役社長(兼)CEO

常務執行役員CFO

執行役員経営管理部長

小川 啓之

堀越 健

今吉 琢也

I. 新型コロナウイルスに関する影響について<P3-P6>

P4-P6 : 新型コロナウイルスに関する影響について

II. 2020年度 第2四半期(中間)決算の概要<P7-P17>

P8-P10 : 2020年度 第2四半期(7-9月)の概況

P11-P12 : 2020年度 上期(4-9月)の概況

P13-P14 : <建設機械・車両> 2020年度 上期(4-9月)の状況(概況・セグメント売上高・利益)

P15 : <リテールファイナンス> 2020年度 上期(4-9月)の状況

P16 : <産業機械他> 2020年度 上期(4-9月)の売上高とセグメント利益

P17 : 連結貸借対照表

III. 2020年度の業績見通し<P18-P33>

P19-P20 : 2020年度の見通し(概要・セグメント売上高・利益)

P21-P22 : <建設機械・車両> 2020年度の売上高とセグメント利益の見通し

P23 : <リテールファイナンス> 2020年度の見通し

P24 : <産業機械他> 2020年度の売上高とセグメント利益の見通し

P25-P30 : <建設機械・車両> 主要7建機の需要推移と見通し(全体及び地域別)

P31-P32 : <建設機械・車両> 鉱山機械の需要推移と売上高の見通し

P33 : <建設機械・車両> 部品の売上高の見通し

参考資料 <P34-P43>

P35 : 新型コロナウイルスに関する影響について (ウィズコロナ/アフターコロナの取組み)

P36-P40 : 四半期毎の状況

P41-P43 : BBレシオ〔受注/売上指数(6ヶ月)〕

I .新型コロナウイルスに関する影響について

1. 事業活動の状況

(1) 生産への影響

最新の状況

全ての工場が通常稼働

(2) 販売・サポート活動への影響

項目	最新の状況
機械の稼働状況	多くの地域で例年並みに戻っている
営業活動	在宅勤務から通常勤務、あるいは、制限付き勤務に移行する拠点が増加
サービス活動	部品倉庫、サービス・ワークショップで通常勤務が増加

2. 業績への影響

(1) 2020年度上期実績

<売上>			
建設機械・車両	第1四半期	第2四半期	上期累計
	前年同期比▲25%	前年同期比▲19%	前年同期比▲22%
	中国以外で減収	中国、オセアニア等でプラス。 その他の地域でもマイナス幅が縮小	
産業機械他	自動車業界向け：設備投資の遅延、見直しの影響を受け、前年同期比減収 半導体業界向け：前年同期比増収		

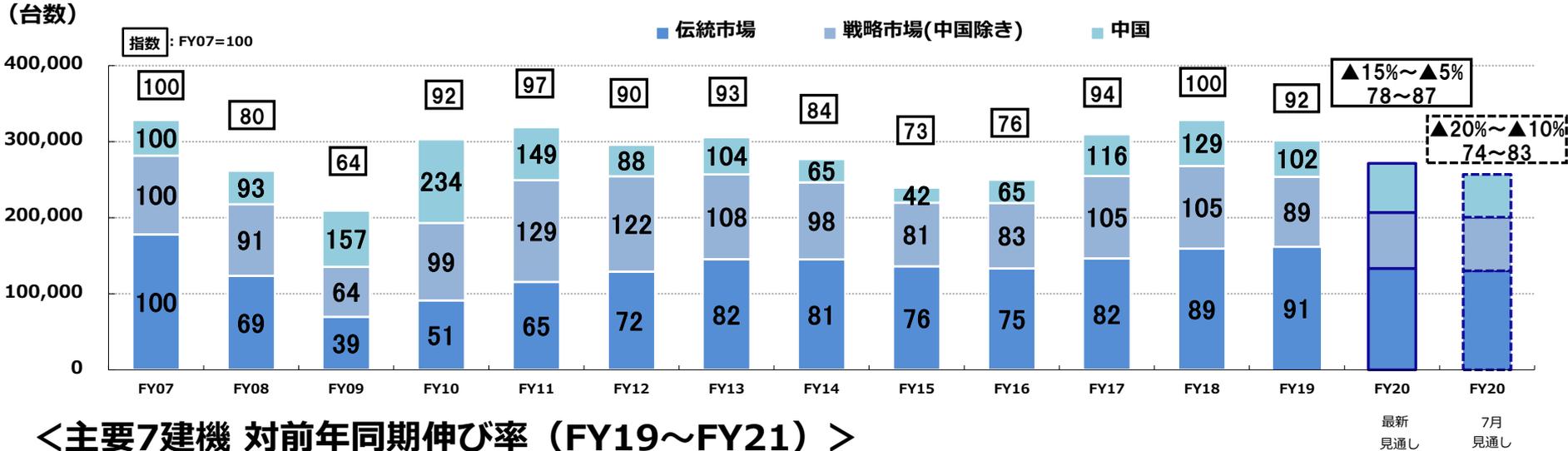
(2) 2020年度業績見通しについて（需要の見通し）

建設機械・車両	前年比	見通し（最新）	見通し（7月）
	7建機需要	▲15%～▲5%	▲20%～▲10%
	内、鉱山機械	▲20%～▲10%	▲20%～▲10%
建設機械・車両	伝統市場	地域によって差はあるが、2Qより対前年同期の減少幅が縮小、回復傾向が続く	
	戦略市場	地域によって差はあるが、2Qより対前年同期の減少幅が大きく縮小、回復傾向が続く	
	中国	2～3月のセールスシーズン後ろ倒しや景気の回復で1Q、2Qは大幅増、今後も堅調に推移する見込み	
産業機械他	自動車業界向け：新規設備の投資延期・抑制で、今年度は厳しい環境が続く 半導体業界向け：需要は堅調		

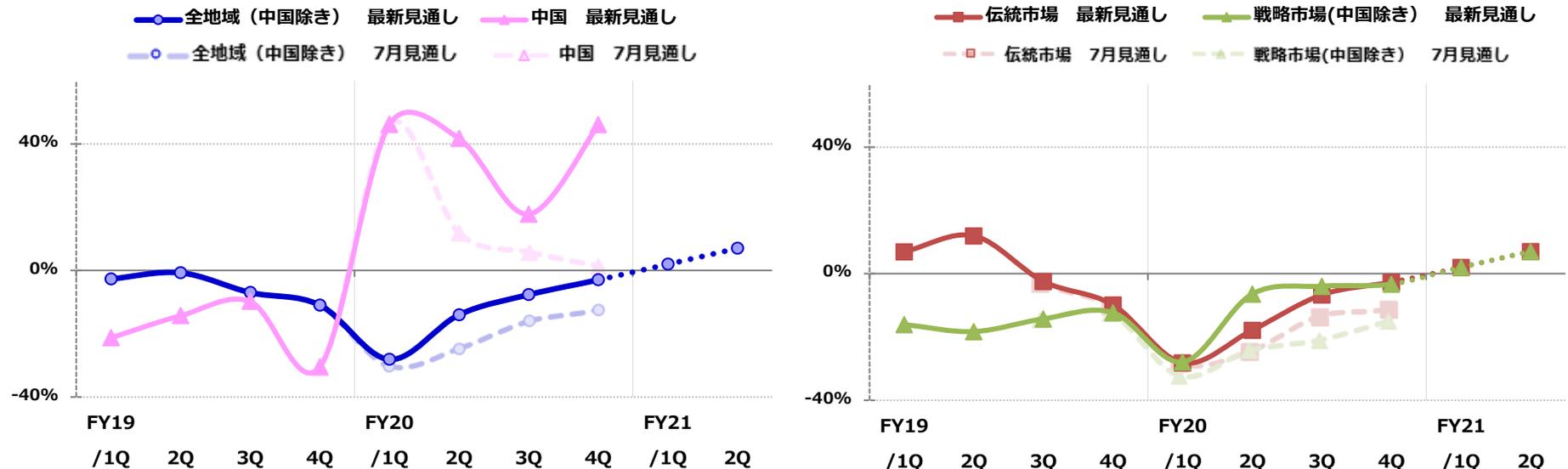
※ 欧州での感染再拡大の影響を始め、新型コロナウイルスによる更なる市場・業績への影響リスクは業績見通しには織り込んでおりません。

(2) 2020年度業績見通しについて (需要の見通し)

<主要7建機 年度別需要推移>



<主要7建機 対前年同期伸び率 (FY19~FY21) >



【出所】 主要7建機需要：コマツの推定

FY21は仮に同じ傾向が続いた場合の想定

FY21は仮に同じ傾向が続いた場合の想定

Ⅱ. 2020年度 第2四半期(中間)決算の概要

- ・ 連結売上高は前年同期比▲17.3%減収の4,989億円。
- ・ 営業利益は前年同期比▲50.3%減益の334億円、売上高営業利益率は▲4.4ポイント低下し6.7%。
- ・ 純利益は前年同期比▲50.6%減益の210億円。

金額単位：億円	2019年7-9月	2020年7-9月	前年同期比	
	¥107.9/USD ¥120.0/EUR ¥15.5/RMB	¥106.7/USD ¥124.2/EUR ¥15.3/RMB	増減	増減率
連結売上高	6,037	4,989	▲ 1,047	▲17.3%
セグメント利益	679	341	▲ 338	▲49.8%
その他の営業収益(▲費用)	▲ 7	▲ 6	+0	-
営業利益	672	334	▲ 337	▲50.3%
売上高営業利益率	11.1%	6.7%	▲ 4.4ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲ 59	▲ 33	+25	-
税引前純利益	613	300	▲ 312	▲51.0%
当社株主に帰属する当期純利益	425	210	▲ 215	▲50.6%

- ・建設機械・車両部門の売上高は、前年同期比▲18.1%減収の4,507億円。セグメント利益は前年同期比▲52.5%減益の290億円。セグメント利益率は▲4.7ポイント低下し6.4%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、前年同期比▲3.8%減収の168億円。セグメント利益は前年同期比▲18.2%減益の27億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、前年同期並みの399億円。セグメント利益は前年同期比▲31.3%減益の23億円。

□ : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2019年7-9月		2020年7-9月		前年同期比			
					増減		増減率	
売上高	6,037		4,989		▲ 1,047		▲ 17.3%	
建設機械・車両	(5,487)	5,501	(4,443)	4,507	(▲ 1,044)	▲ 994	(▲ 19.0%)	▲ 18.1%
リテールファイナンス	(156)	175	(149)	168	(▲ 6)	▲ 6	(▲ 4.5%)	▲ 3.8%
産業機械他	(393)	397	(396)	399	(+3)	+2	(+0.9%)	+0.5%
消去	▲ 36		▲ 85		▲ 48		-	
セグメント利益	□ 11.3%	679	□ 6.8%	341	□ ▲ 4.5ポイント	▲ 338	▲ 49.8%	
建設機械・車両	□ 11.1%	611	□ 6.4%	290	□ ▲ 4.7ポイント	▲ 321	▲ 52.5%	
リテールファイナンス	□ 19.5%	34	□ 16.6%	27	□ ▲ 2.9ポイント	▲ 6	▲ 18.2%	
産業機械他	□ 8.8%	34	□ 6.0%	23	□ ▲ 2.8ポイント	▲ 10	▲ 31.3%	
消去または全社	▲ 0		▲ 0		+0		-	

各セグメントの状況：

■ 建設機械・車両

物量減及び為替差のマイナス影響により減収、固定費の削減で一部吸収したが、物量減のマイナス影響により減益。

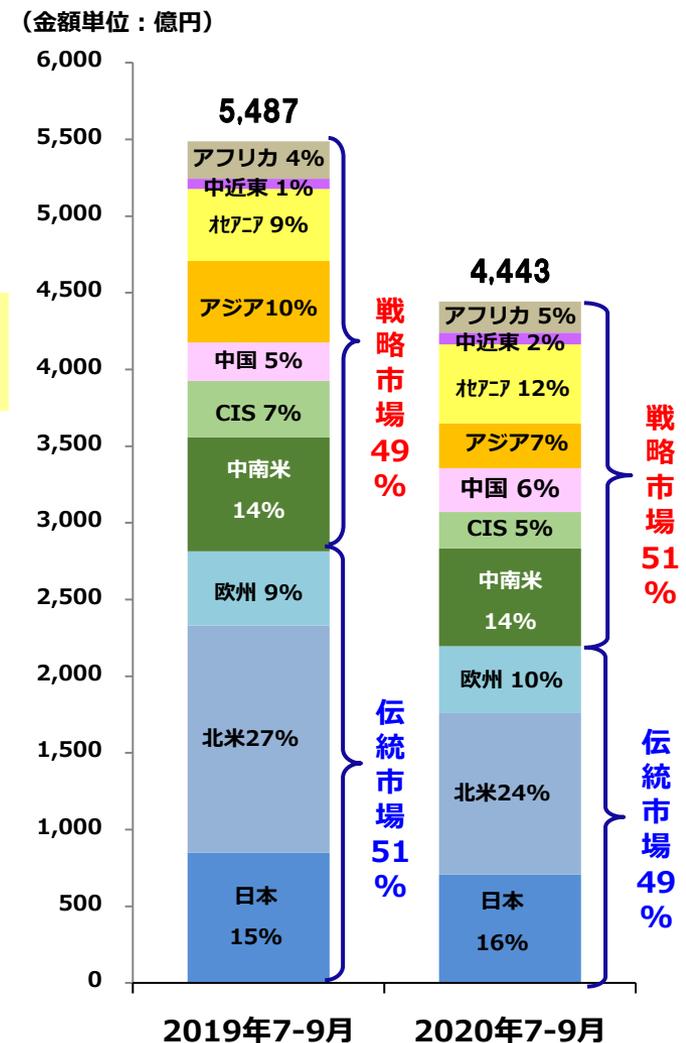
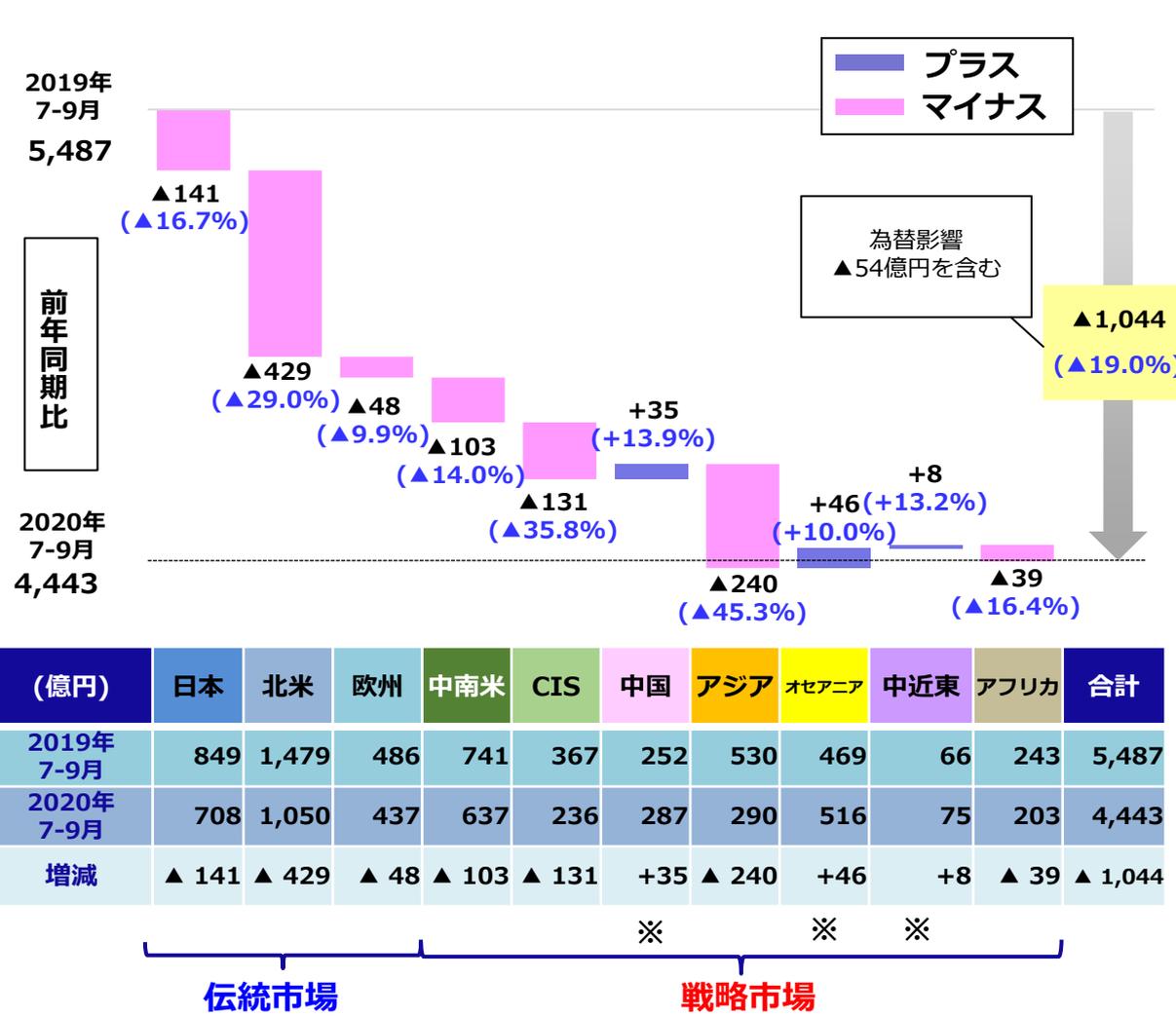
■ リテールファイナンス

新規取組額の減少により減収、売上の減少に加え、リースアップ車の評価の見直し等により減益。

■ 産業機械他

売上高は前年同期並み、自動車業界向け鍛圧機械、工作機械の販売減等に伴い減益。

- 外部顧客向け売上高は前年同期比▲19.0%減収の4,443億円。
- 北米、アジア、日本、CISで大きく減少。オセアニア、中国、中近東で増加。
- 伝統市場の比率は49%に低下。



※ 為替影響を除くベースでプラスの地域

- ・ 連結売上高は前年同期比▲21.1%減収の9,577億円。
- ・ 営業利益は前年同期比▲57.5%減益の603億円、売上高営業利益率は▲5.4ポイント低下し6.3%。
- ・ 純利益は前年同期比▲58.6%減益の372億円。

金額単位：億円	2019年/上期	2020年/上期	前年同期比	
	¥109.0/USD ¥121.6/EUR ¥15.8/RMB	¥107.1/USD ¥121.4/EUR ¥15.2/RMB	増減	増減率
連結売上高	12,134	9,577	▲ 2,557	▲21.1%
セグメント利益	1,406	607	▲ 799	▲56.8%
その他の営業収益 (▲費用)	12	▲ 4	▲ 17	-
営業利益	1,419	603	▲ 816	▲57.5%
売上高営業利益率	11.7%	6.3%	▲ 5.4ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲ 137	▲ 18	+119	-
税引前純利益	1,282	585	▲ 696	▲54.3%
当社株主に帰属する当期純利益	900	372	▲ 527	▲58.6%
一株当たり配当金 (円)	55円	18円	▲37円	

- ・建設機械・車両部門の売上高は、前年同期比▲21.2%減収の8,765億円。セグメント利益は前年同期比▲59.8%減益の522億円。セグメント利益率は▲5.7ポイント低下し6.0%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、前年同期比▲5.8%減収の327億円。セグメント利益は前年同期比▲31.2%減益の46億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、前年同期比▲11.9%減収の649億円。セグメント利益は前年同期比+1.6%増益の41億円。

□ : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2019年/上期		2020年/上期		前年同期比	
					増減	増減率
売上高		12,134		9,577	▲ 2,557	▲21.1%
建設機械・車両	(11,093)	11,116	(8,643)	8,765	(▲ 2,449) ▲ 2,351	(▲22.1%) ▲21.2%
リテールファイナンス	(311)	347	(289)	327	(▲ 22) ▲ 20	(▲7.1%) ▲5.8%
産業機械他	(730)	737	(644)	649	(▲ 85) ▲ 87	(▲11.7%) ▲11.9%
消去		▲ 67		▲ 165	▲ 98	-
セグメント利益	□ 11.6%	1,406	□ 6.3%	607	□ ▲ 5.3ポイント ▲ 799	▲56.8%
建設機械・車両	□ 11.7%	1,298	□ 6.0%	522	□ ▲ 5.7ポイント ▲ 776	▲59.8%
リテールファイナンス	□ 19.6%	68	□ 14.3%	46	□ ▲ 5.3ポイント ▲ 21	▲31.2%
産業機械他	□ 5.5%	40	□ 6.3%	41	□ +0.8ポイント +0	+1.6%
消去または全社		0		▲ 2	▲ 2	-

各セグメントの状況：

■ 建設機械・車両

物量減及び為替差のマイナス影響により減収、固定費の削減で一部吸収したが、物量減のマイナス影響により減益。

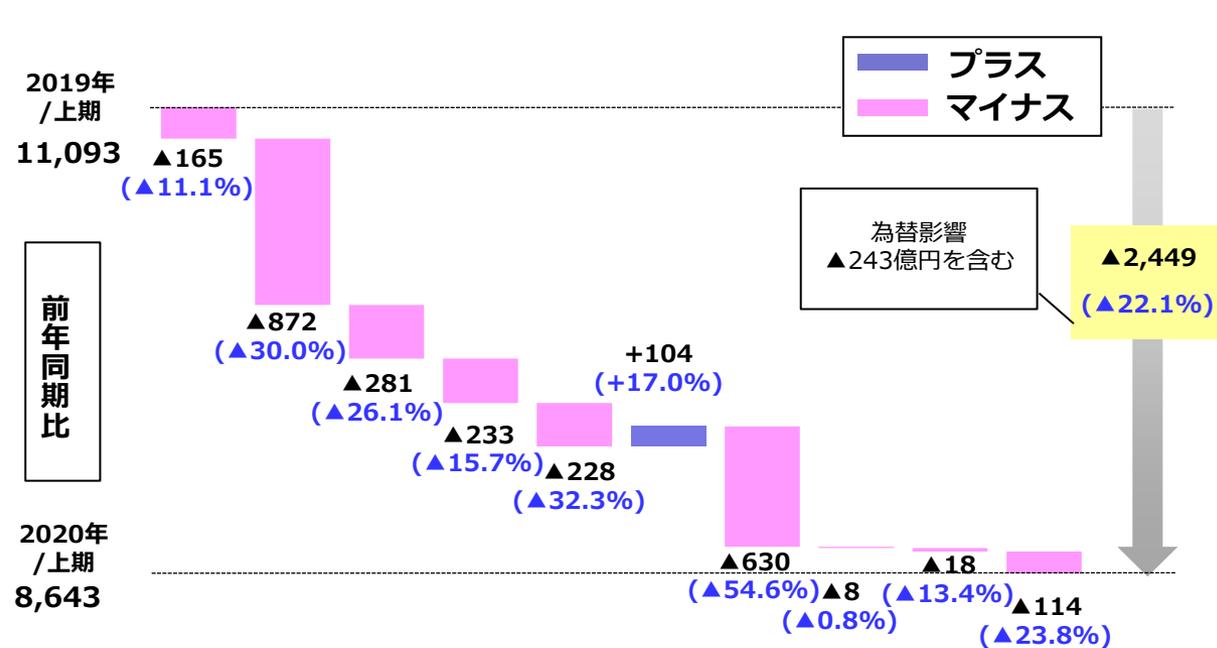
■ リテールファイナンス

新規取組高の減少や為替の影響等により減収、売上の減少に加え、支払猶予の影響やリースアップ車の評価の見直し等により減益。

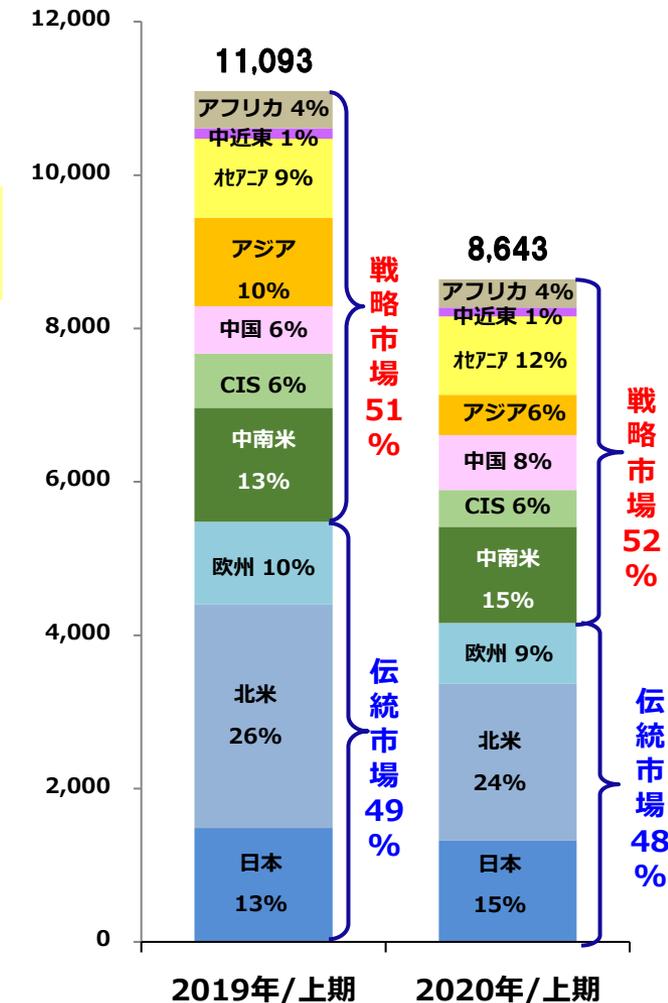
■ 産業機械他

自動車業界向け鍛圧機械、工作機械の販売減等に伴い減収、半導体市場向けエキシマレーザー関連の販売が堅調であったことにより増益。

- 外部顧客向け売上高は前年同期比▲22.1%減収の8,643億円。
- 中国を除くすべての地域で減少。特に北米、アジア、欧州で大きく減少。
- 伝統市場の比率は48%に低下。



(金額単位：億円)



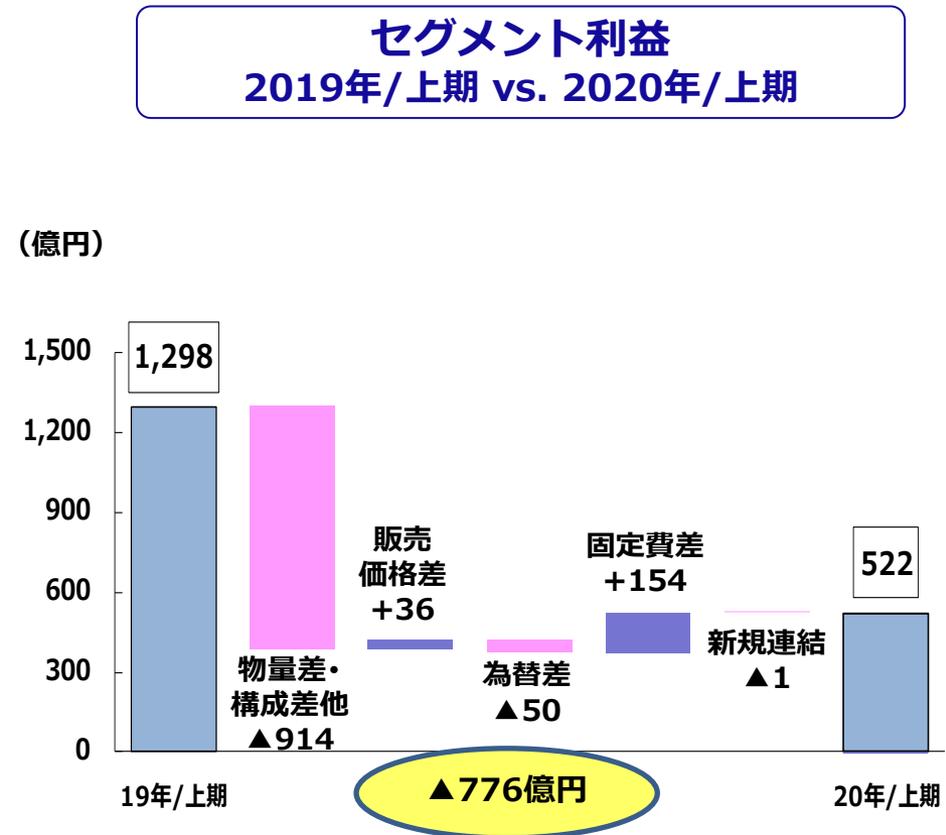
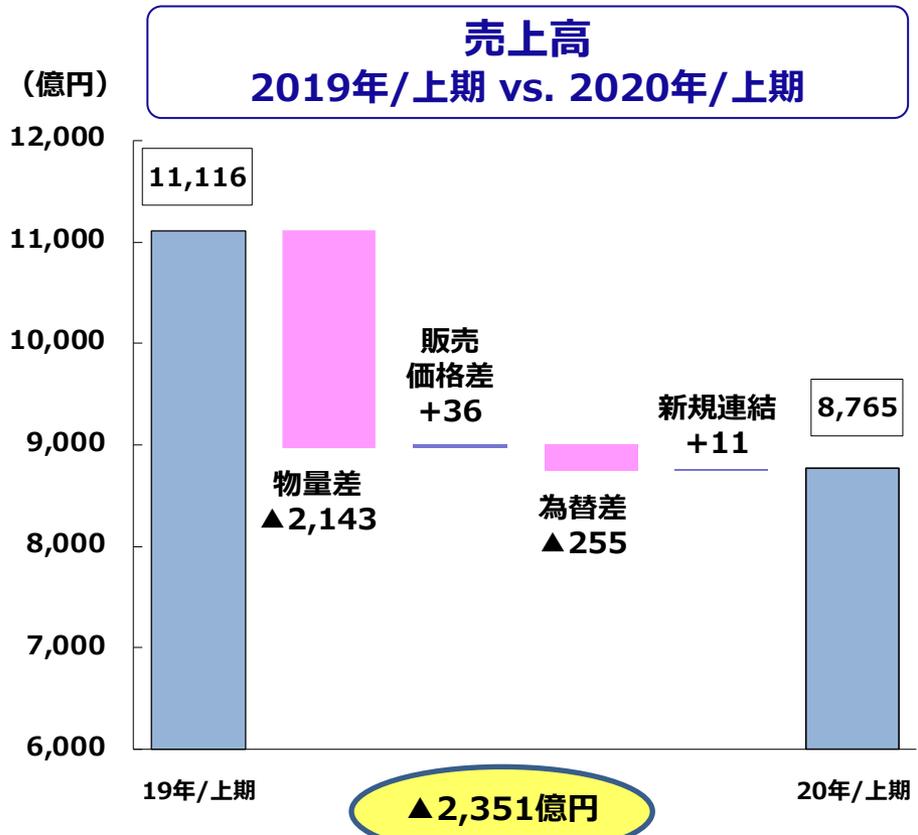
(億円)	日本	北米	欧州	中南米	CIS	中国	アジア	オセアニア	中近東	アフリカ	合計
2019年 / 上期	1,487	2,914	1,077	1,486	708	614	1,154	1,030	136	483	11,093
2020年 / 上期	1,322	2,041	795	1,253	479	718	523	1,021	118	368	8,643
増減	▲165	▲872	▲281	▲233	▲228	+104	▲630	▲8	▲18	▲114	▲2,449

伝統市場

戦略市場

※ 為替影響を除くベースでプラスの地域

- ・売上高は、物量の減少および為替のマイナス影響により、前年同期比▲2,351億円の減収。
- ・セグメント利益は、物量減のマイナス影響を固定費の削減で一部吸収したが、前年同期比▲776億円の減益。
- ・売上高セグメント利益率は前年同期比▲5.7ポイント減の6.0%。



¥109.0/USD
¥121.6/EUR
¥15.8/RMB

■ プラス要因
■ マイナス要因

¥107.1/USD
¥121.4/EUR
¥15.2/RMB

■ プラス要因
■ マイナス要因

11.7%

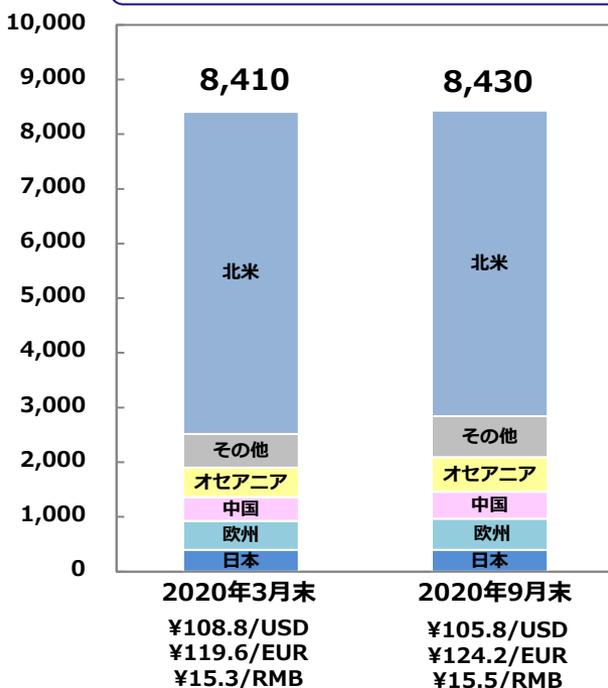
売上高セグメント利益率

6.0%

- ・ 資産は北米で減少したものの中国等での増加があり、前年度末比増加。
- ・ 新規取組高は新型コロナウイルス感染拡大の影響による販売減等により、前年同期比減少。
- ・ 売上高は新規取組高の減少等により、前年同期比減収。
- ・ セグメント利益は、売上高の減少に加え、リースアップ車の評価の見直し等により、前年同期比減益。

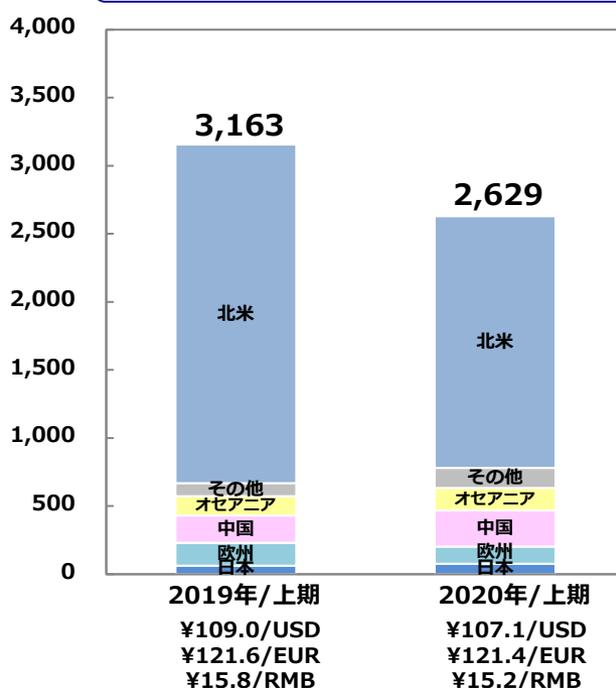
資産

2020年3月末 vs. 2020年9月末



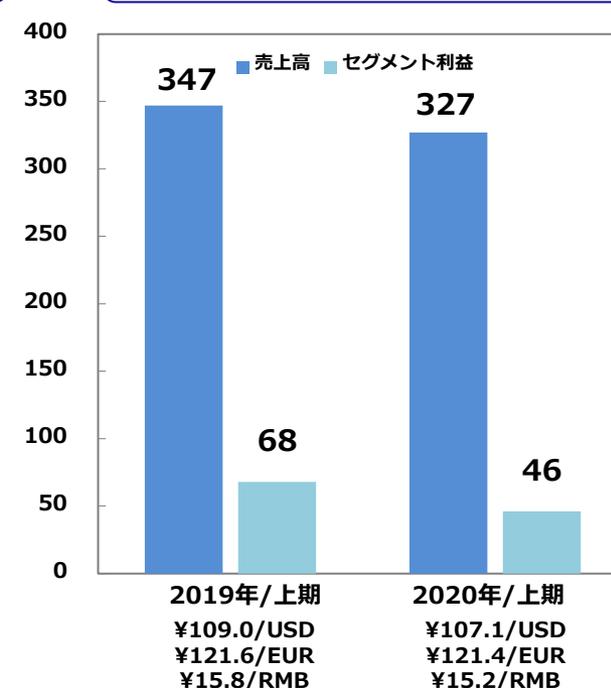
新規取組高

2019年/上期 vs. 2020年/上期



収益

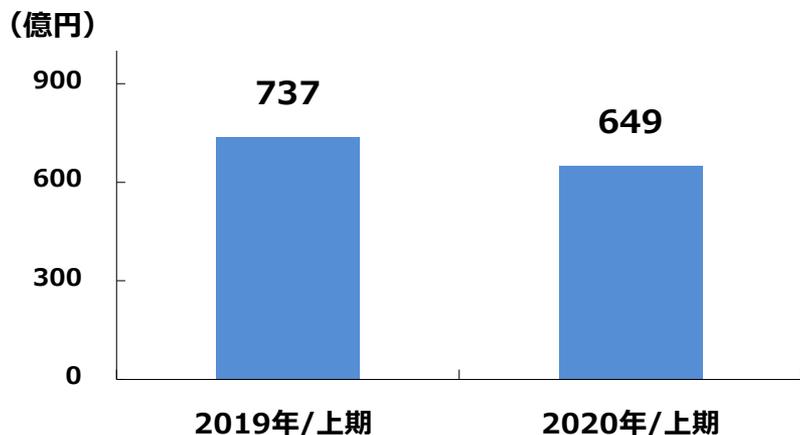
2019年/上期 vs. 2020年/上期



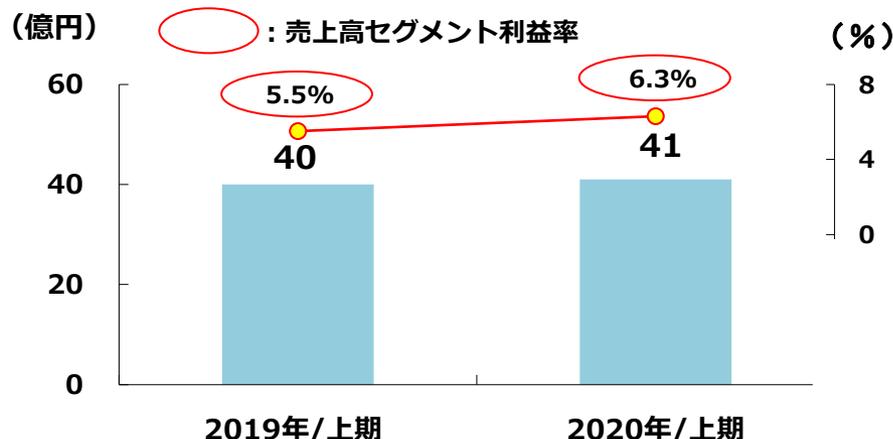
金額単位: 億円	2020年3月末	2020年9月末	前年同期比
借入金	6,480	6,501	+20
ネットベースの借入金	6,424	6,474	+50
ネットD/Eレシオ	3.80	3.86	+0.06ポイント

- ・売上高は自動車業界向けの鍛圧機械及び工作機械の販売減少により、前年同期比▲11.9%減収の649億円。
- ・セグメント利益は、前年同期並みの41億円。
- ・売上高セグメント利益率は6.3%。

売上高
2019年/上期 vs. 2020年/上期



セグメント利益
2019年/上期 vs. 2020年/上期



売上高の内訳

(億円)	2019年/上期	2020年/上期	前年比	
			増減	増減率
コマツ産機	220	167	▲53	▲24.2%
コマツNTC	202	117	▲85	▲42.1%
ギガフォトン	174	187	+12	+7.4%
その他	138	177	+38	+27.4%
合計	737	649	▲87	▲11.9%

- ・総資産は前年度末比▲592億円減少の3兆5,944億円。売掛金が減少、棚卸資産は増加。
- ・株主資本比率は前年度末比+1.0ポイント増の49.5%。

金額単位：億円 ○：ネットD/Eレシオ	2020年3月末 ¥108.8/USD ¥119.6/EUR ¥15.3/RMB	2020年9月末 ¥105.8/USD ¥124.2/EUR ¥15.5/RMB	増減
現金・預金（含む定期預金）[a]	2,496	2,358	▲ 138
受取手形・売掛金（含む長期売上債権）	11,653	10,965	▲ 687
棚卸資産	8,053	8,389	+335
有形固定資産	7,576	7,574	▲ 2
その他資産	6,757	6,657	▲ 99
資産合計	36,536	35,944	▲ 592
支払手形・買掛金	2,201	1,940	▲ 261
借入金・社債 [b]	10,123	9,660	▲ 463
その他負債	5,649	5,676	+27
負債合計	17,974	17,277	▲ 696
（株主資本比率）	（48.5%）	（49.5%）	（+1.0ポイント）
株主資本	17,716	17,775	+59
非支配持分	846	891	+44
負債及び純資産合計	36,536	35,944	▲ 592
ネットバースの借入金・社債 [b-a]	○ 0.43 7,627	○ 0.41 7,302	▲ 325
ネットD/Eレシオ（リテールファイナンス会社を除いた場合）	○ 0.08	○ 0.05	

Ⅲ. 2020年度の業績見通し

- ・連結売上高は前年比▲13.3%減収の2兆1,190億円（7月見通しから+510億円上方修正）、営業利益は前年比▲46.6%減益の1,340億円（7月見通しから+190億円上方修正）。
- ・1株当たり配当金は43円（7月見通しから+7円の変更）。

※下期為替の前提 1ドル:105円、1中国元:15.0円は変更無し、11-0:124円に見直し。

金額単位：億円	2019年度 (A) ¥108.7/USD ¥120.8/EUR ¥15.6/RMB	2020年度 (最新見通し) (B) ¥106.1/USD ¥122.7/EUR ¥15.1/RMB	2020年度 (7月見通し) ¥105.6/USD ¥116.7/EUR ¥15.0/RMB	前年比 (B) - (A)	
				増減	増減率
連結売上高	24,448	21,190	20,680	▲ 3,258	▲13.3%
セグメント利益	2,550	1,390	1,210	▲ 1,160	▲45.5%
その他の営業収益(▲費用)	▲ 43	▲ 50	▲ 60	▲ 6	-
営業利益	2,507	1,340	1,150	▲ 1,167	▲46.6%
売上高営業利益率	10.3%	6.3%	5.6%	▲ 4.0 ¹ 点外	-
その他の収益(▲費用)	▲ 275	▲ 70	▲ 70	+205	-
税引前純利益	2,231	1,270	1,080	▲ 961	▲43.1%
当社株主に帰属する当期純利益	1,538	800	670	▲ 738	▲48.0%
ROE	8.6%	4.5%	3.8%	▲4.1 ¹ 点外	
1株当たり配当金 (円)	94円	43円	36円	▲51円	
連結配当性向	57.7%	50.8%	50.8%		

- ・建設機械・車両の売上高は、7月見通しから+600億円上方修正し1兆9,050億円、セグメント利益は+200億円上方修正し1,180億円。
- ・リテールファイナンスの売上高は、7月見通しから▲10億円下方修正し670億円、セグメント利益は据え置き。
- ・産業機械他の売上高は、7月見通しから▲90億円下方修正し1,720億円、セグメント利益は▲20億円下方修正し120億円。

□ : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2019年度		2020年度 (最新見通し)		2020年度 (7月見通し)		前年比(B)-(A)	
	(A)		(B)				増減	増減率
売上高	24,448		21,190		20,680		▲ 3,258 ▲ 13.3%	
建設機械・車両	(22,059) 22,112	(18,900) 19,050	(18,290) 18,450	(▲ 3,159) ▲ 3,062	(▲ 14.3%) ▲ 13.9%			
リテールファイナンス	(629) 709	(580) 670	(590) 680	(▲ 49) ▲ 39	(▲ 7.9%) ▲ 5.5%			
産業機械他	(1,759) 1,775	(1,710) 1,720	(1,800) 1,810	(▲ 49) ▲ 55	(▲ 2.8%) ▲ 3.1%			
消去	▲ 148		▲ 250		▲ 260		▲ 101 -	
セグメント利益	10.4% 2,550	6.6% 1,390	5.9% 1,210	▲ 3.8% 1,160	▲ 45.5%			
建設機械・車両	10.3% 2,273	6.2% 1,180	5.3% 980	▲ 4.1% 1,093	▲ 48.1%			
リテールファイナンス	17.9% 126	14.9% 100	14.7% 100	▲ 3.0% 26	▲ 21.1%			
産業機械他	7.7% 137	7.0% 120	7.7% 140	▲ 0.7% 17	▲ 12.4%			
消去または全社	13		▲ 10		▲ 10		▲ 23 -	

各セグメントの状況：

■ 建設機械・車両

- ・物量減及び為替差のマイナス影響により減収、固定費の削減による効果があるが、物量の減少、為替のマイナス影響により減益。
- ・7月見通しに対し、中国、日本、北米等で需要が想定を上回ると予想されることや、固定費削減等を織り込み業績見通しを修正。

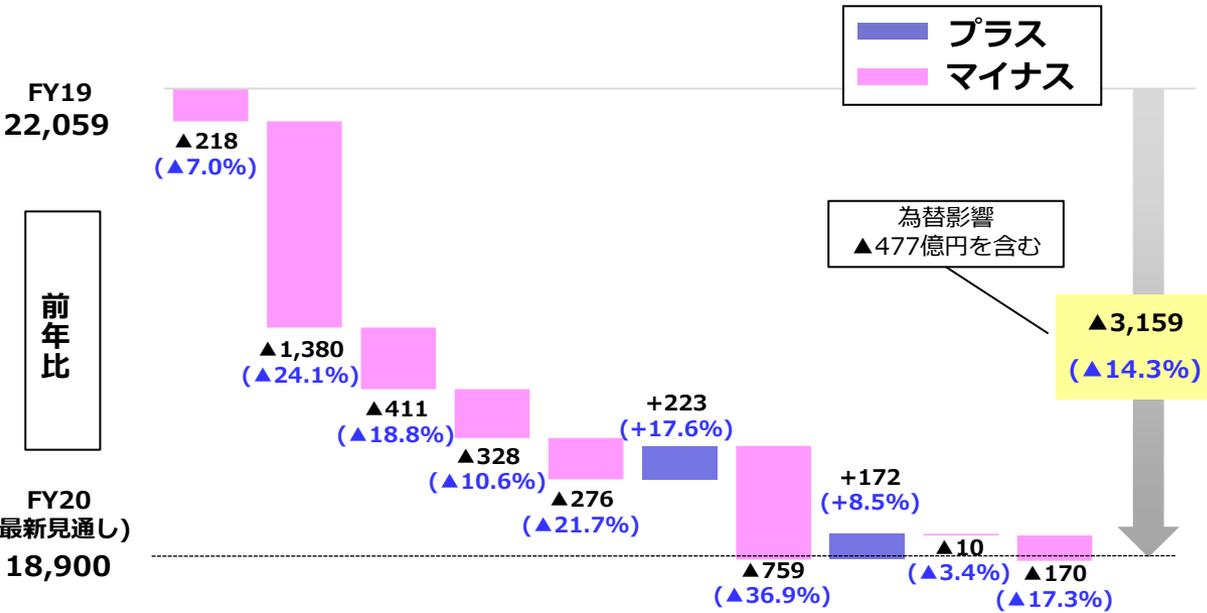
■ リテールファイナンス

- ・新規取組高の減少等により減収、売上高の減少に加え、支払猶予の影響やリースアップ車の評価の見直し等により減益。
- ・7月見通しに対し、新規取組高の減少による影響等を織り込み業績見通しを修正。

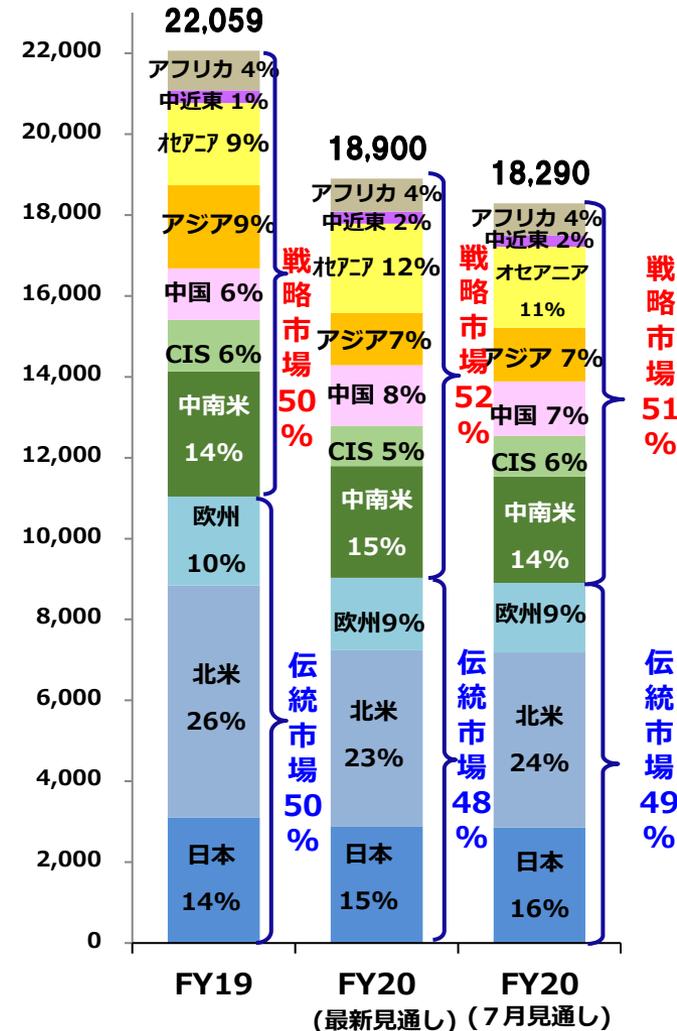
■ 産業機械他

- ・自動車関連向けの鍛圧機械及び工作機械の販売減少により減収減益。
- ・7月見通しに対し、自動車関連向けの低調であることや海外顧客における据え付け作業の遅延等を織り込み業績見通しを修正。

- 外部顧客向け売上高は前年比▲14.3%減収の1兆8,900億円の見通し。
- 中国、オセアニアで増加。北米、アジア、欧州で大きく減少。
- 伝統市場の比率は48%に低下。



(金額単位：億円)



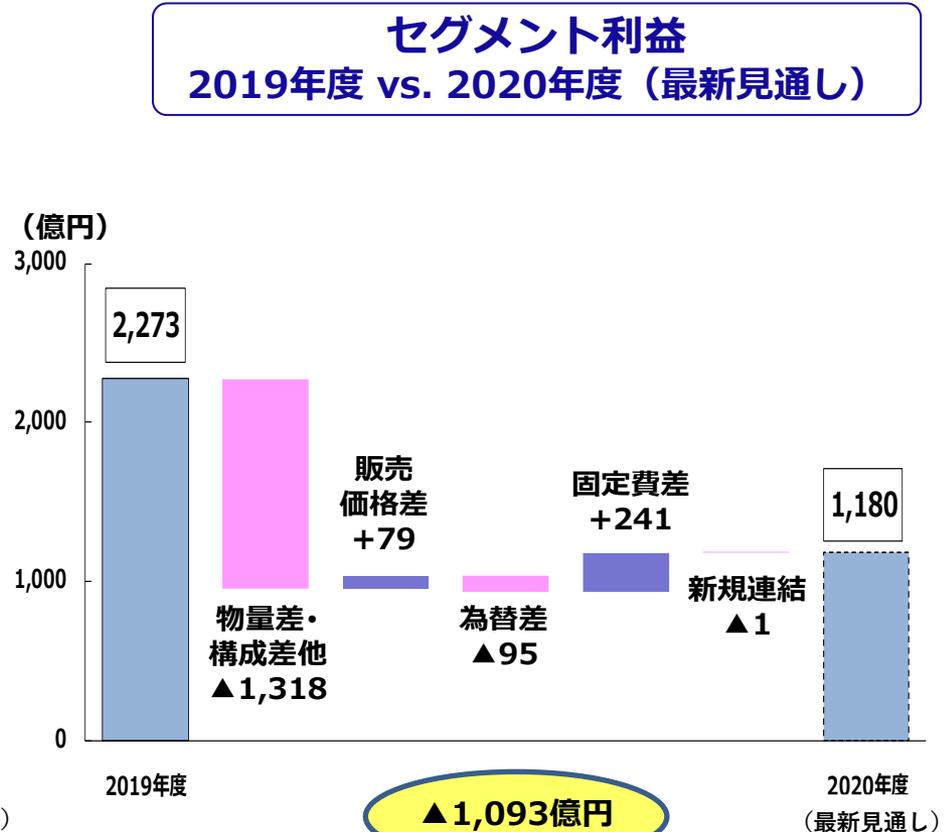
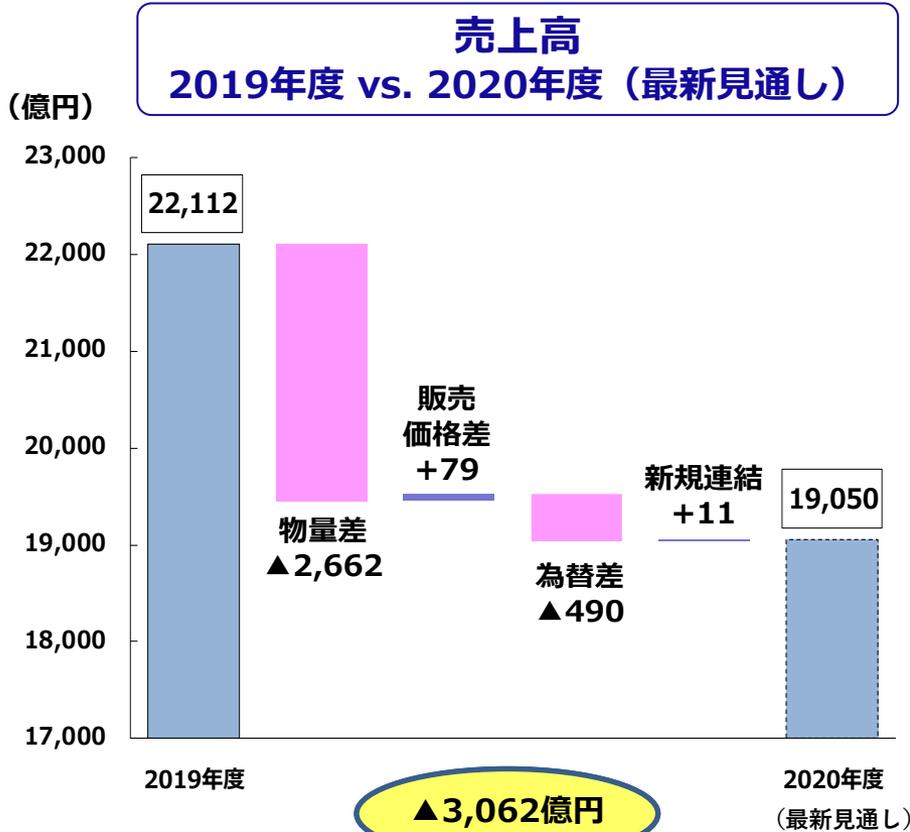
(億円)	日本	北米	欧州	中南米	CIS	中国	アジア	オセアニア	中近東	アフリカ	合計
2019年度	3,108	5,735	2,197	3,092	1,274	1,270	2,057	2,033	306	982	22,059
2020年度 (最新見通し)	2,889	4,355	1,785	2,764	998	1,494	1,298	2,206	296	812	18,900
増減	▲ 218	▲ 1,380	▲ 411	▲ 328	▲ 276	+223	▲ 759	+172	▲ 10	▲ 170	▲ 3,159

伝統市場

戦略市場

※ 為替影響を除くベースでプラスの地域

- ・売上高は、物量の減少および為替のマイナス影響により、前年比▲3,062億円の減収となる見込み。
- ・セグメント利益は、物量減のマイナス影響を固定費の削減で一部吸収するが、前年比▲1,093億円の減益となる見込み。
- ・売上高セグメント利益率は前年比▲4.1ポイント低下し6.2%。



¥108.7/USD
¥120.8/EUR
¥15.6/RMB

■ プラス要因
■ マイナス要因

¥106.1/USD
¥122.7/EUR
¥15.1/RMB

■ プラス要因
■ マイナス要因

10.3%

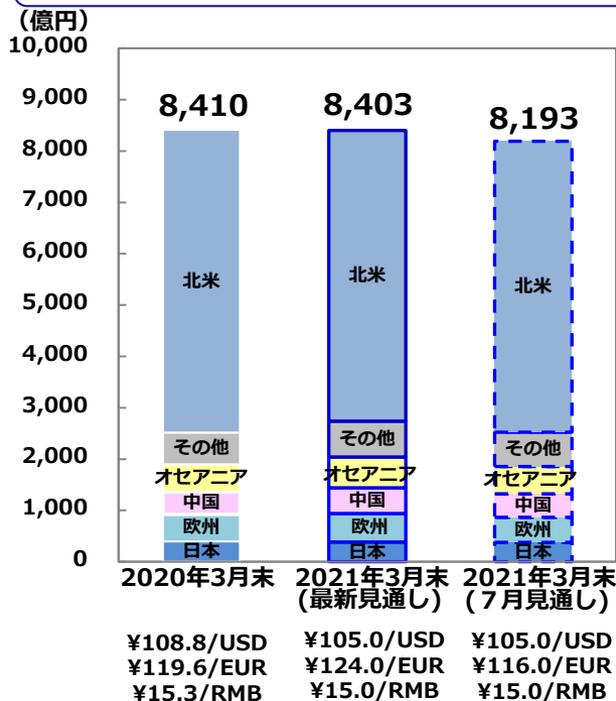
売上高セグメント利益率

6.2%

- ・資産は、主に新規取組減に伴い前年度末比減少の見通し。
- ・新規取組高は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響による販売減等により前年比減少の見通し。
- ・売上高は、新規取組高の減少により、前年比減収の見通し。
- ・セグメント利益は、売上高の減少に加え、リースアップ車の評価の見直し等により、前年比減益の見通し。

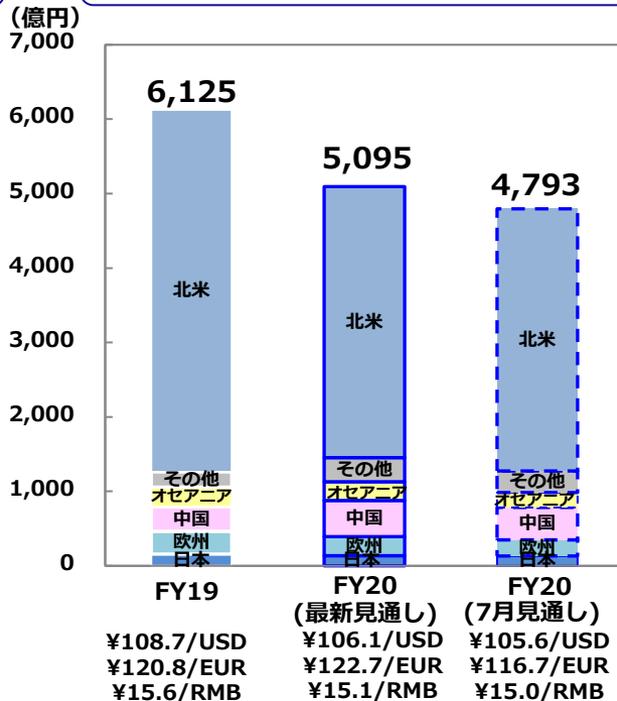
資産

2020年3月末 vs. 2021年3月末 (最新見通し)



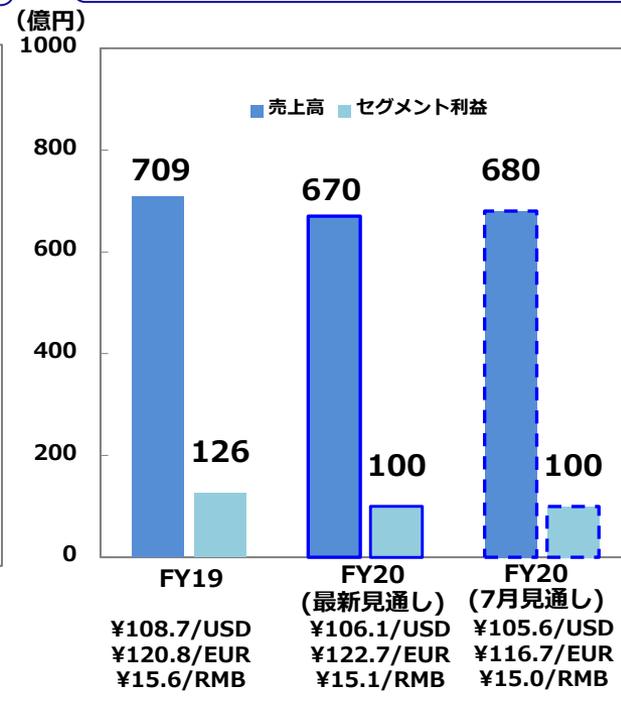
新規取組高

2019年度 vs. 2020年度 (最新見通し)



収益

2019年度 vs. 2020年度 (最新見通し)

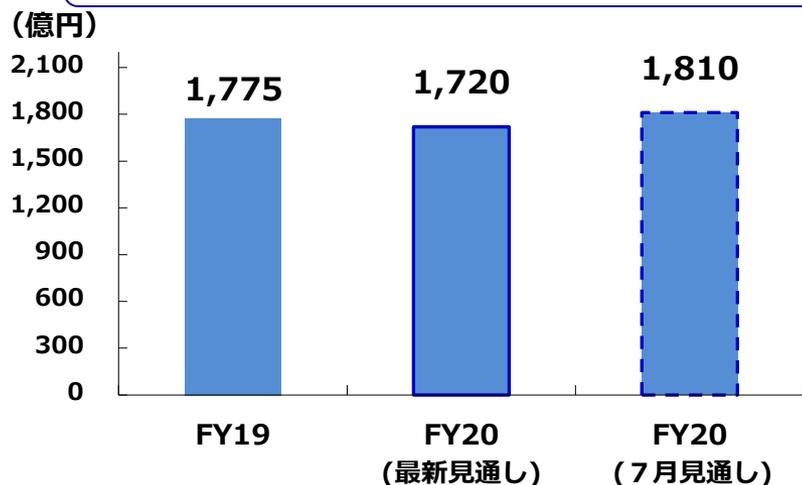


金額単位：億円	2020年3月末 (A)	2021年3月末 (最新見通し) (B)	2021年3月末 (7月見通し)	前年比 (B)-(A)
借入金	6,480	6,625	6,414	+145
ネットベースの借入金	6,424	6,569	6,389	+145
ネットD/Eレシオ	3.80	4.02	3.91	+0.22ポイント

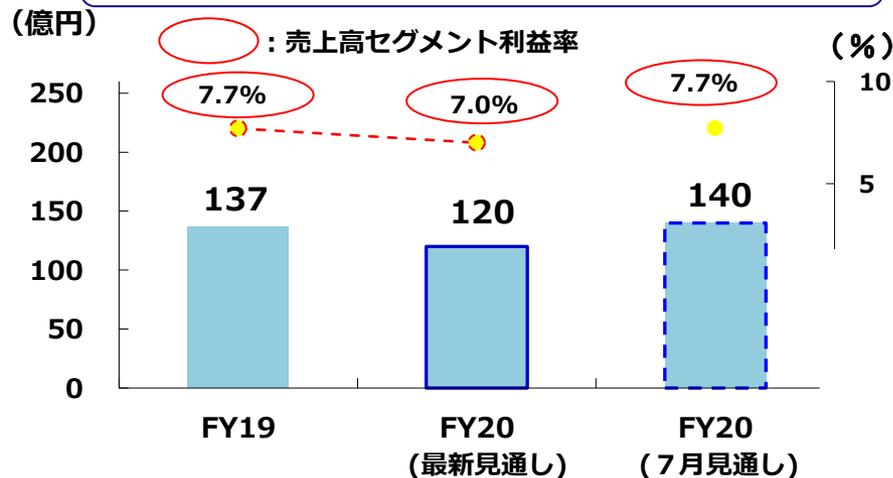
	2019年度 (A)	2020年度 (最新見通し) (B)	2020年度 (7月見通し)	前年比 (B)-(A)
ROA	1.5%	1.2%	1.2%	▲0.3ポイント

・売上高は前年比▲3.1%減収の1,720億円、セグメント利益は前年比▲17億円減益の120億円となる見通し。

売上高
2019年度 vs. 2020年度(最新見通し)



セグメント利益
2019年度 vs. 2020年度(最新見通し)

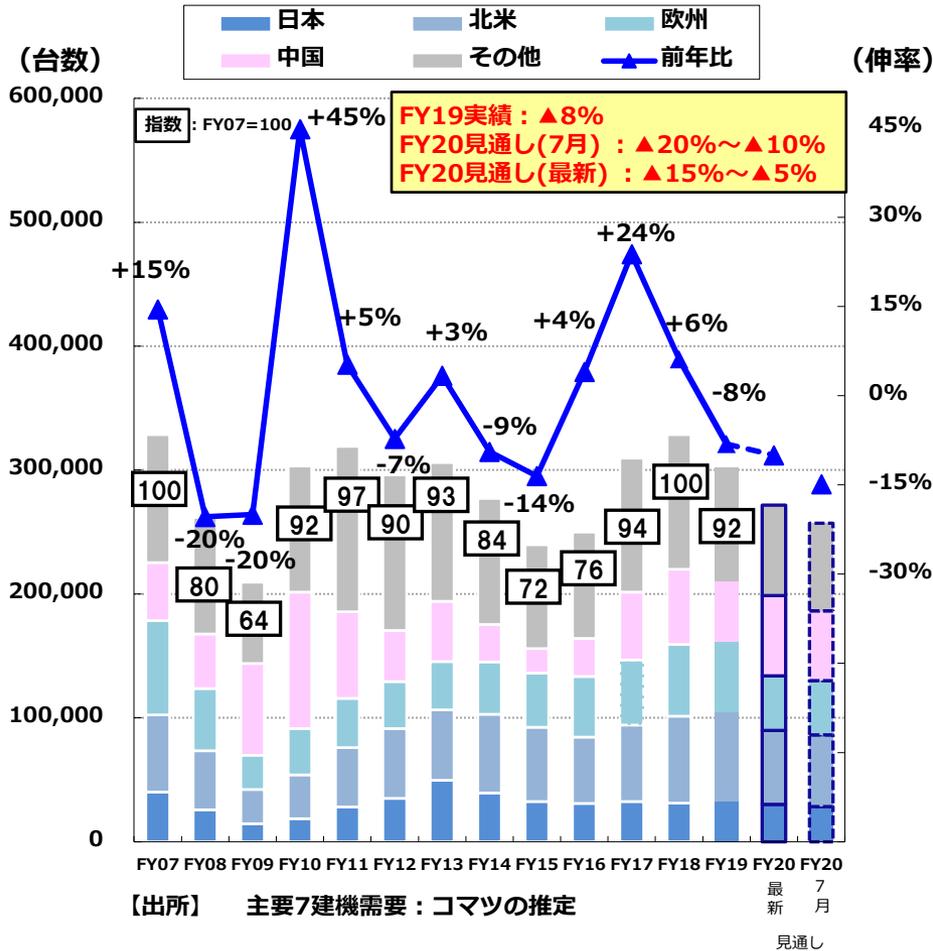


売上高の内訳

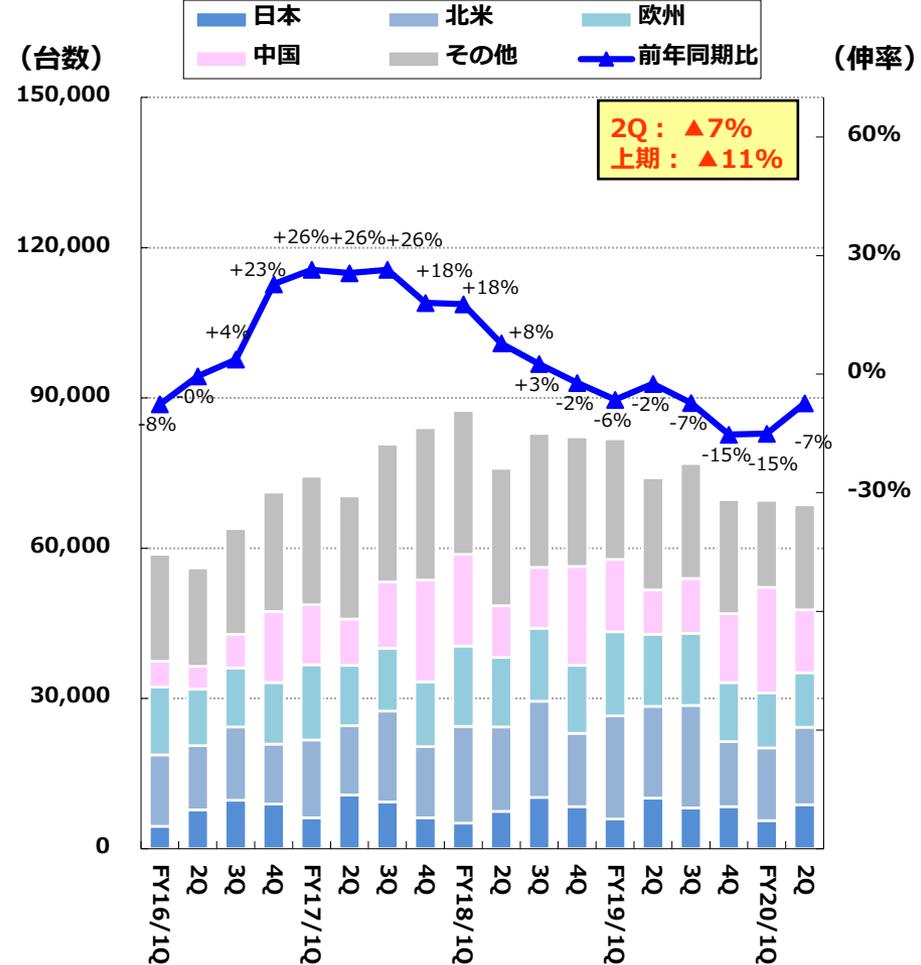
(億円)	2019年度 (A)	2020年度 (最新見通し) (B)	2020年度 (7月見通し)	前年比(B)-(A)	
				増減	増減率
コマツ産機	550	518	572	▲32	▲5.9%
コマツNTC	483	316	364	▲167	▲34.6%
ギガフォトン	350	405	398	+54	+15.6%
その他	390	479	474	+89	+22.8%
合計	1,775	1,720	1,810	▲55	▲3.1%

- ・ 2020年度第2四半期の需要は、前年同期比▲7%減少。
- ・ 2020年度の需要は、前年比▲15%～▲5%へ見直し。
- ・ 7月見通しに対し、中国、北米、日本等での需要増加を織り込み。

主要7建機 年度別需要推移

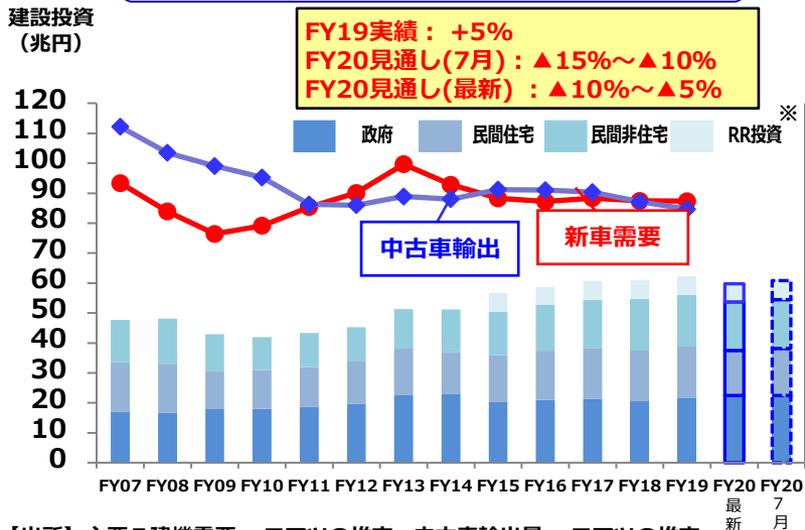


主要7建機 四半期別需要推移

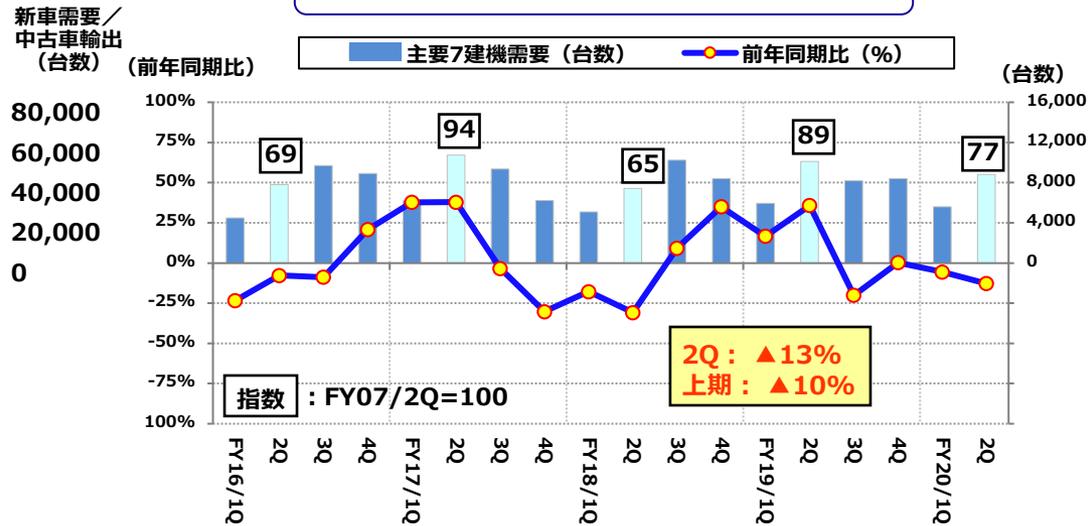


- ・ 2020年度第2四半期の需要は、前年同期比▲13%減少。
- ・ 2020年度の需要は、前年比▲10%～▲5%へ見直し。
- ・ 公共事業による土木向けの需要が堅調に推移しており、7月見通しより、改善すると見込む。

新車需要（主要7建機）と建設投資

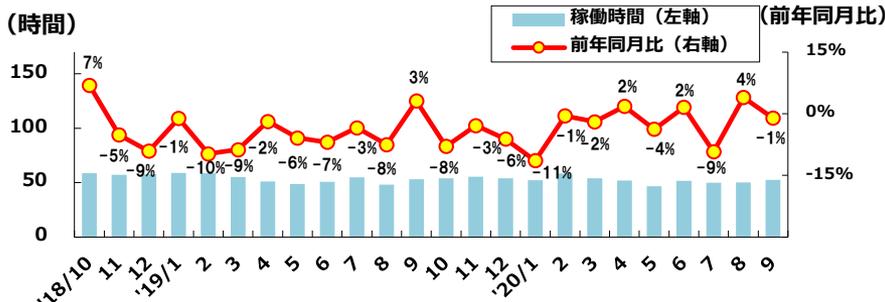


主要7建機 四半期別需要推移

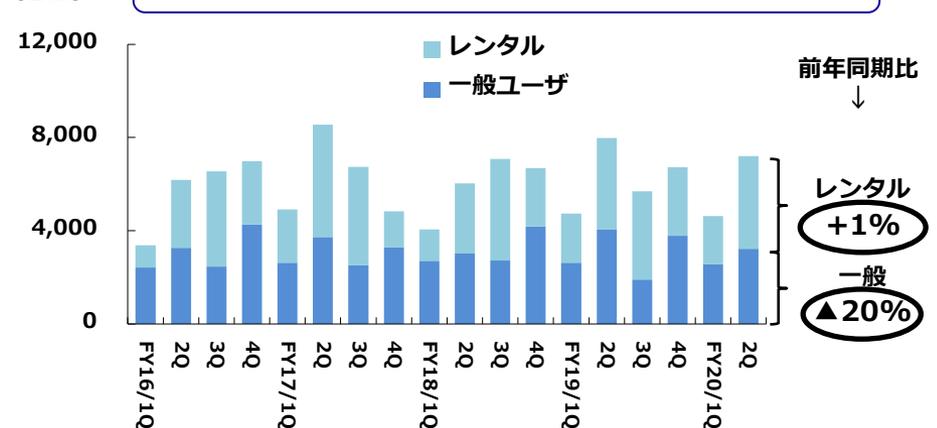


【出所】 主要7建機需要：コマツの推定 中古車輸出货量：コマツの推定
 建設投資：国土交通省／建設経済研究所
 ※ 2019年9月より建築物リフォーム・リニューアル投資（RR投資）の集計が追加された、15年まで遡及表示。

KOMTRAX(日本) 月平均稼働時間推移

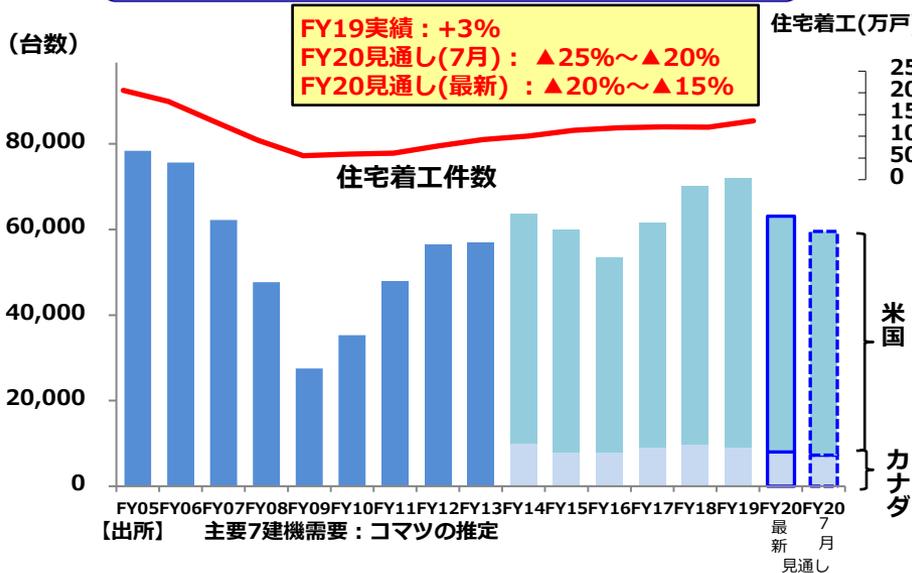


油圧ショベル 需要推移(レンタル/一般向け)

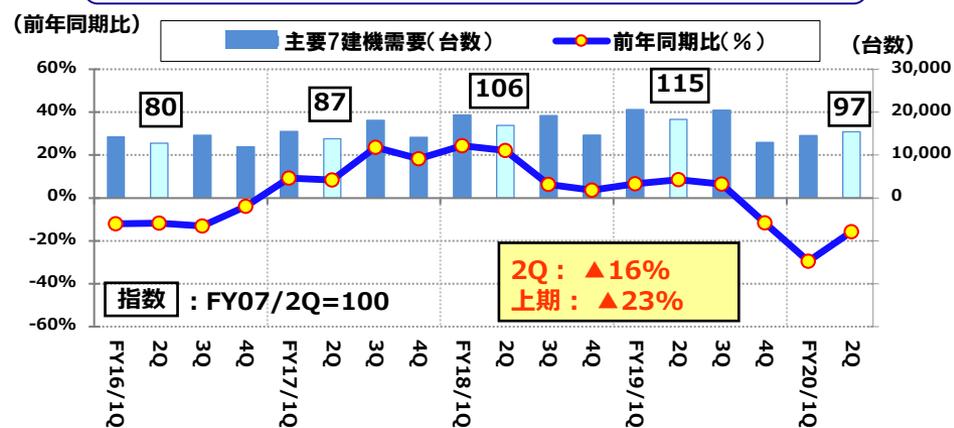


- ・2020年度第2四半期の需要は、前年同期比▲16%減少。
- ・2020年度の需要は、前年比▲20%～▲15%へ見直し。
- ・経済活動が再開され、建設・住宅を中心に需要が回復傾向であることから、見通しを修正。

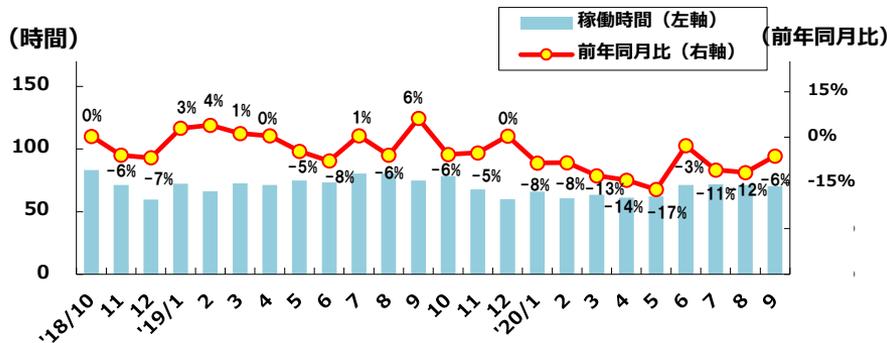
主要7建機 需要推移と住宅着工件数



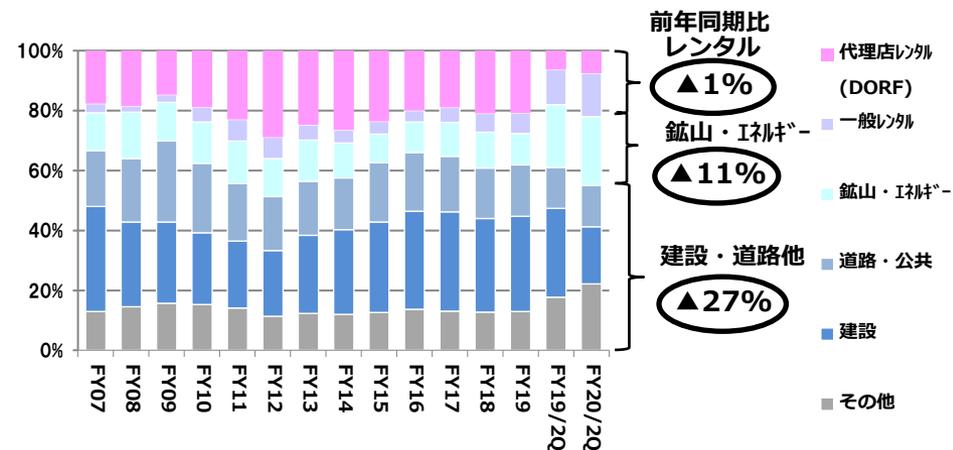
主要7建機 四半期需要推移



KOMTRAX(北米) 月平均稼働時間推移

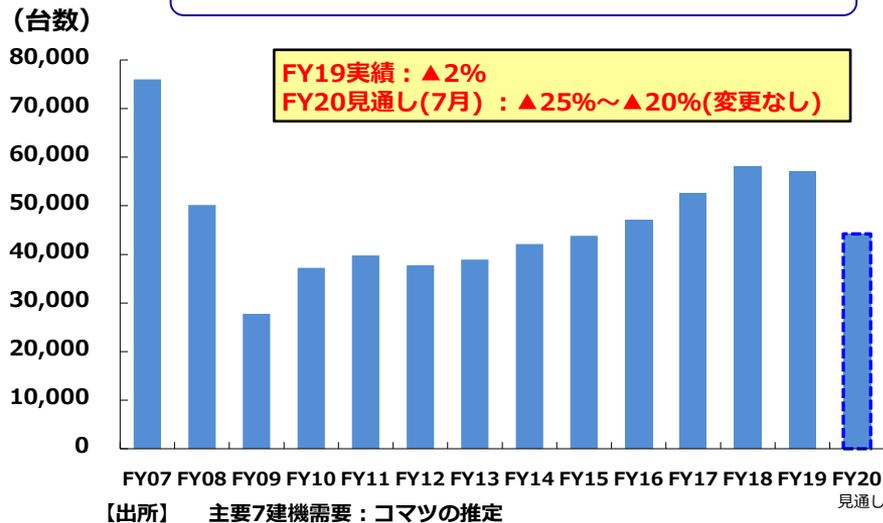


セグメント別需要構成比(台数ベース)

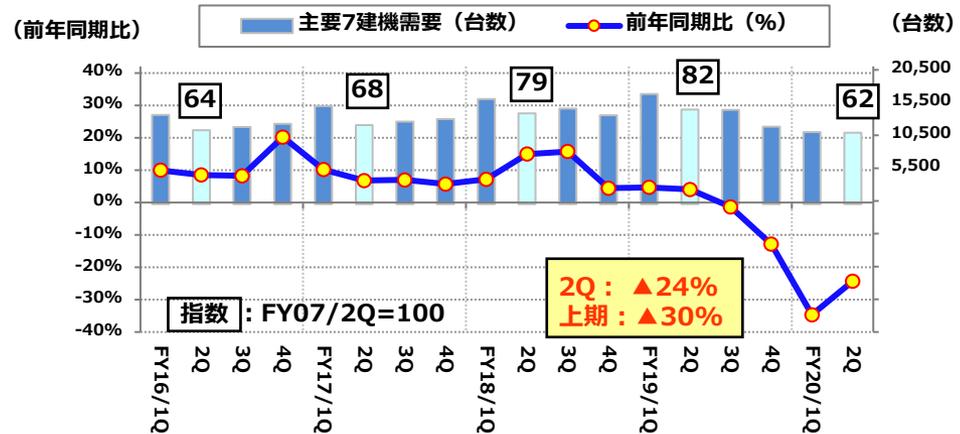


- ・2020年度第2四半期の需要は、前年同期比▲24%減少。
- ・2020年度の需要は、前年比▲25%～▲20%の見通し（7月見通しから変更無し）。新型コロナウイルス感染再拡大により需要が下振れするリスクもあるため、状況を注視。

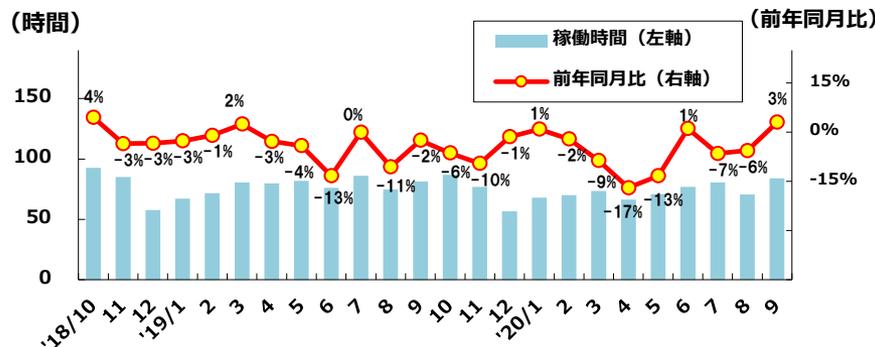
主要7建機 年度別需要推移



主要7建機 四半期需要推移



KOMTRAX(欧州) 月平均稼働時間推移

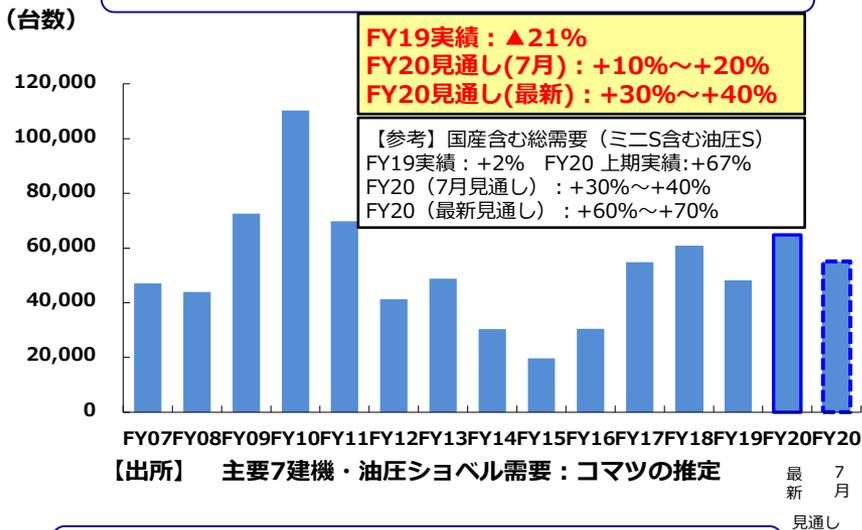


主要7建機(6ヶ国を除く)地域別需要

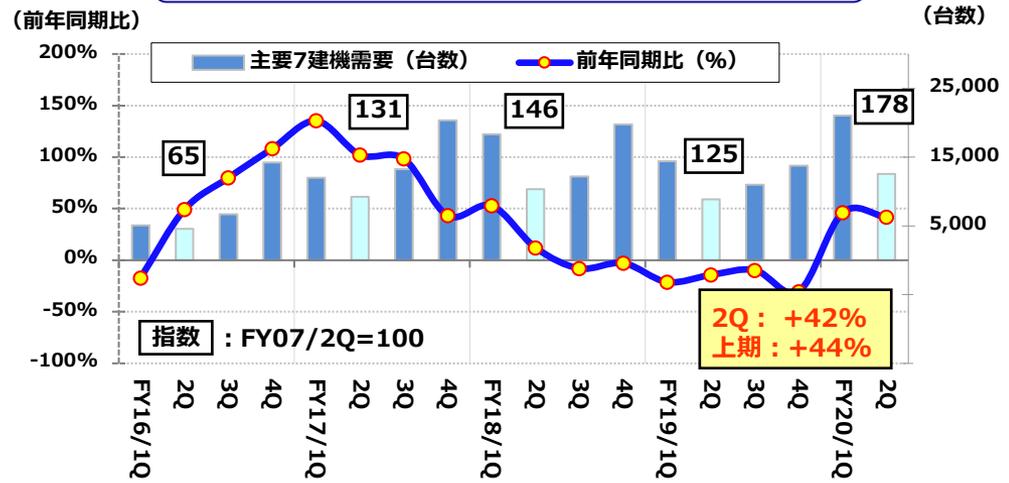


- ・ 2020年度第2四半期の需要は、前年同期比+42%増加。
- ・ 2020年度の需要は、前年比+30%~+40%へ見直し。
- ・ 景気回復により、需要が強い状態が継続していることを織り込み上方修正。

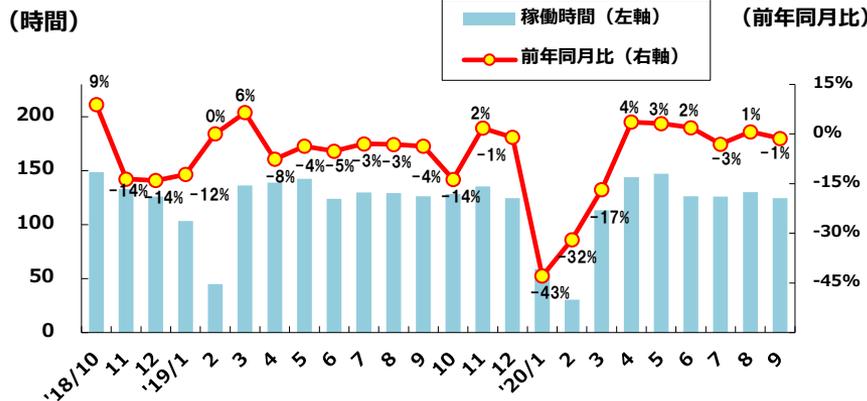
主要7建機 年度別需要推移 (外資メーカ)



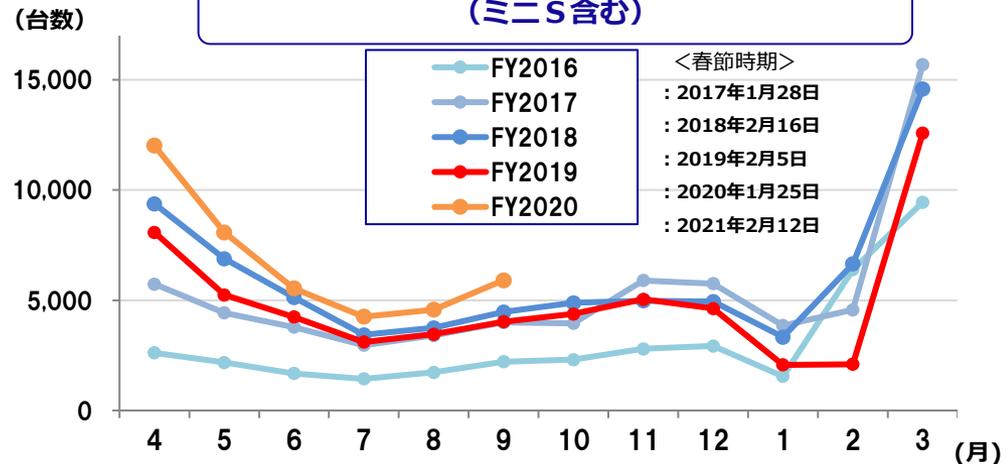
主要7建機 四半期需要推移 (外資メーカ)



KOMTRAX(中国) 月平均稼働時間推移

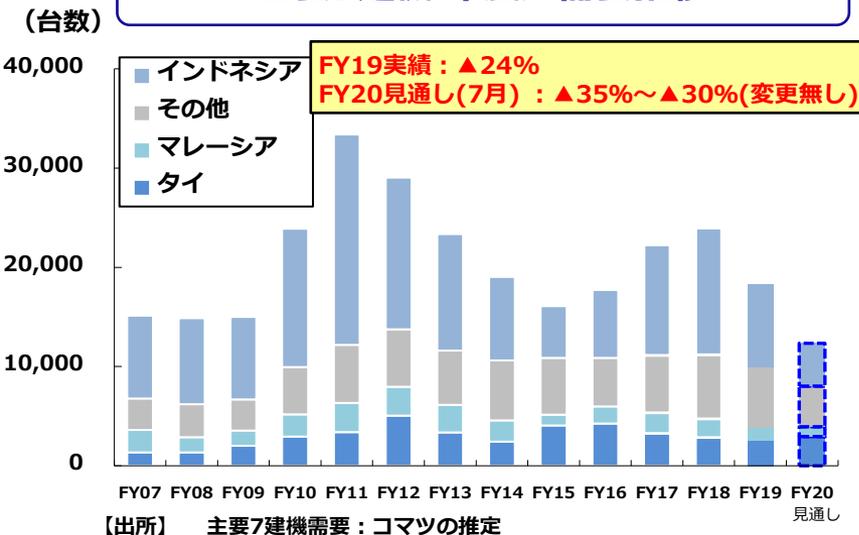


中国：油圧ショベルの月別需要推移 (ミニS含む)

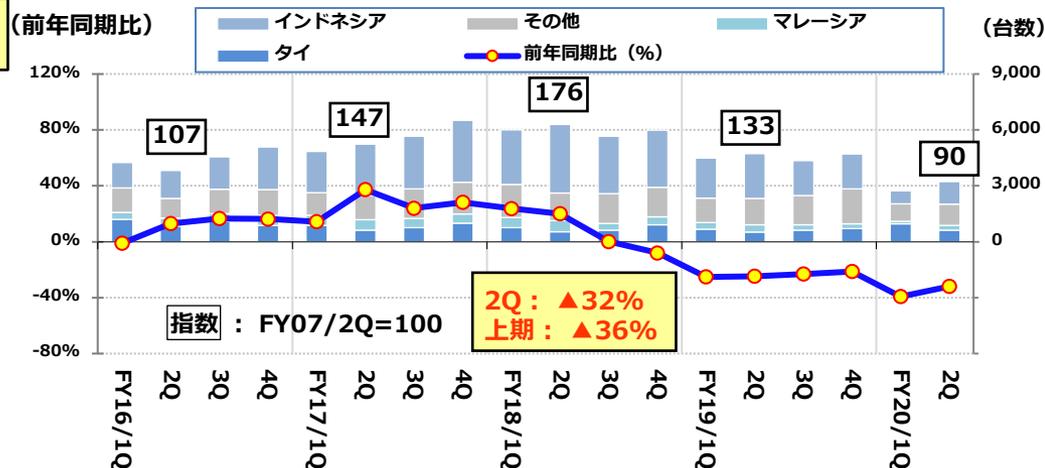


- ・ 2020年度第2四半期の需要は、前年同期比▲32%減少。
- ・ 2020年度の需要は、前年比▲35%～▲30%の見通し（7月見通しから変更無し）。

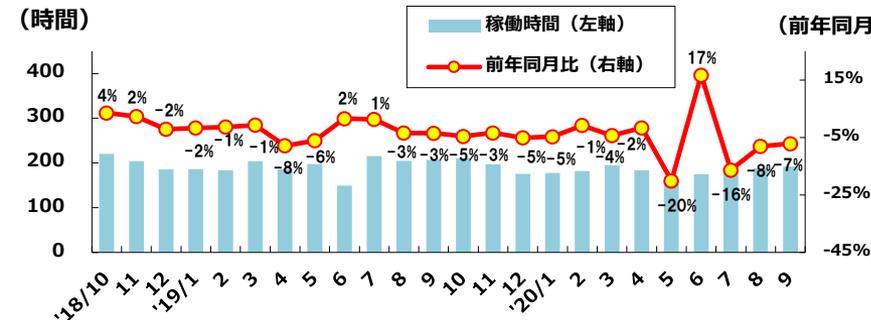
主要7建機 年度別需要推移



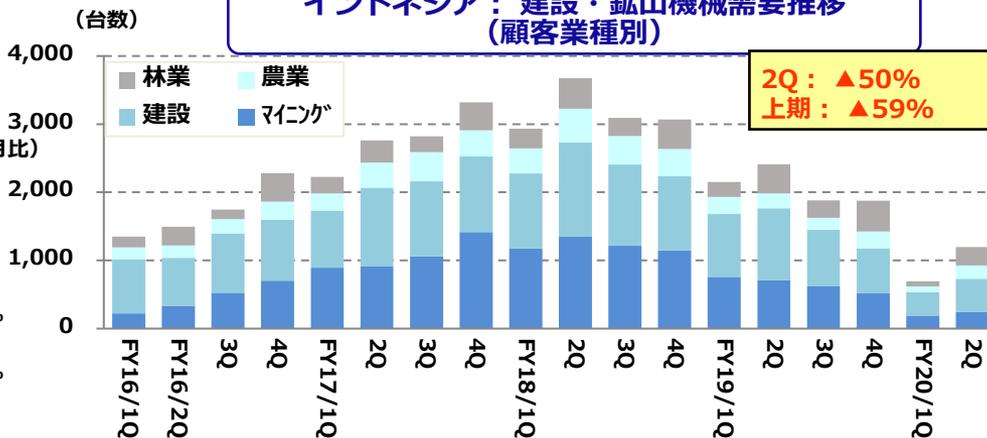
主要7建機 四半期需要推移



KOMTRAX(インドネシア) 月平均稼働時間推移



インドネシア：建設・鉱山機械需要推移 (顧客業種別)



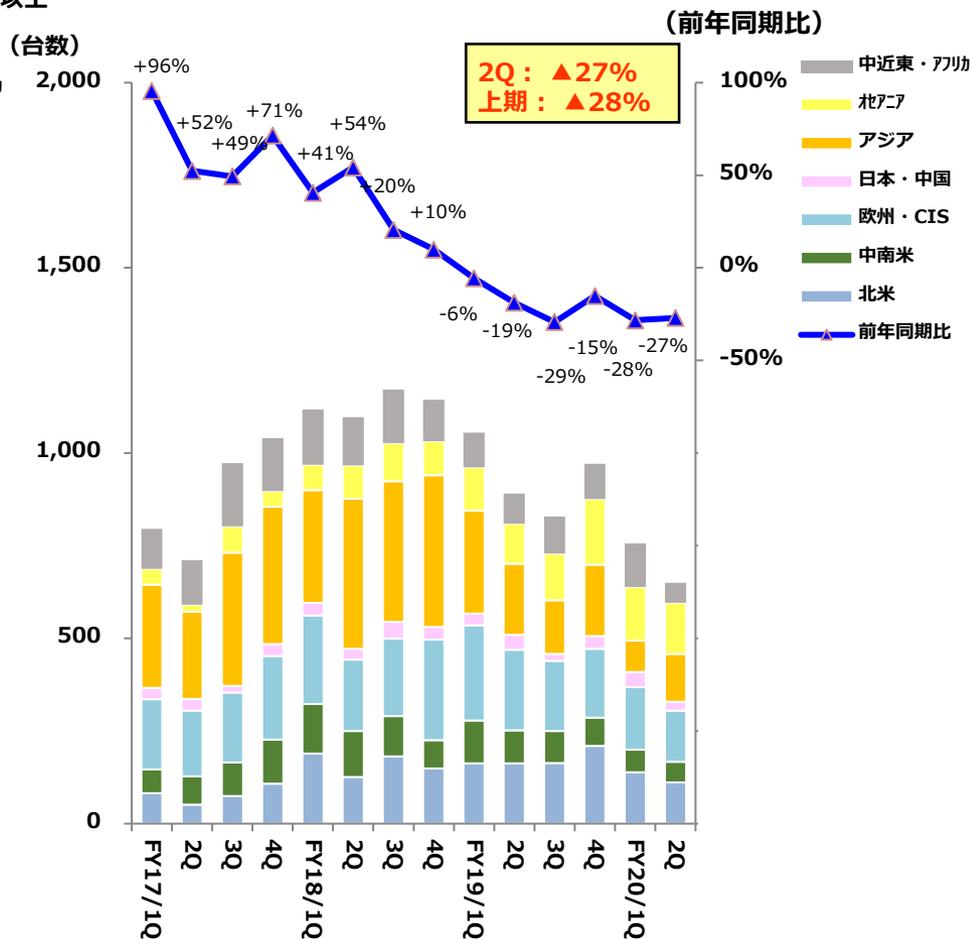
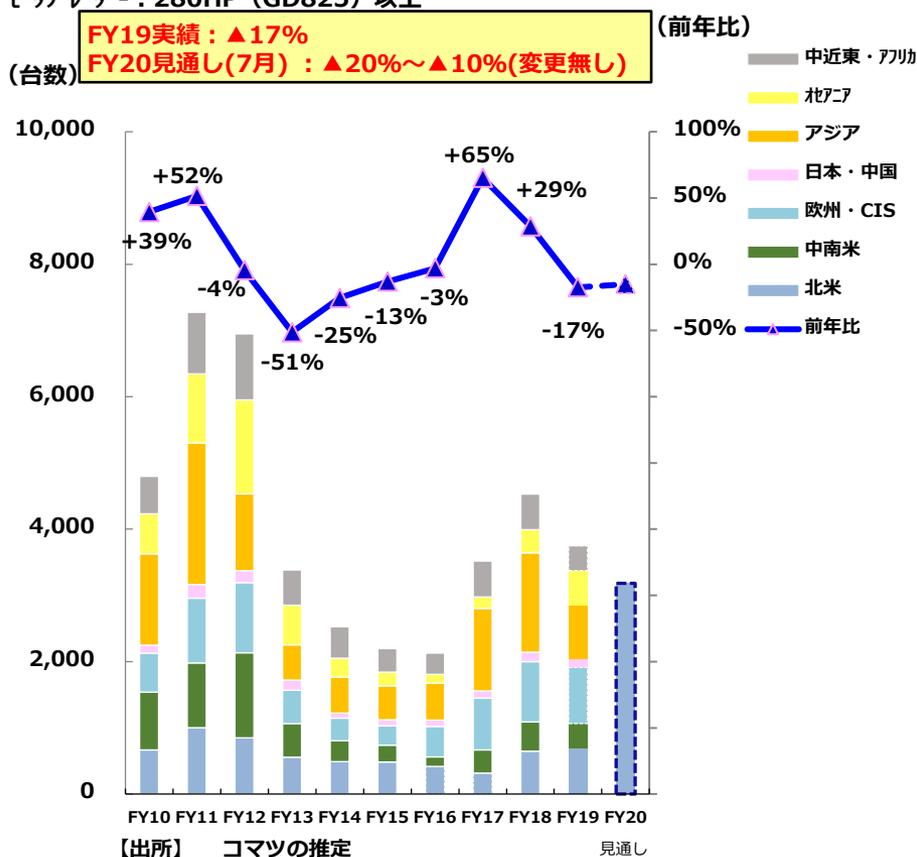
- ・2020年度第2四半期の需要は、前年同期比▲27%減少。
- ・2020年度の需要は、前年比▲20%～▲10%の見通し（7月見通しから変更無し）。

鉱山機械 年度別需要推移

鉱山機械 四半期別需要推移

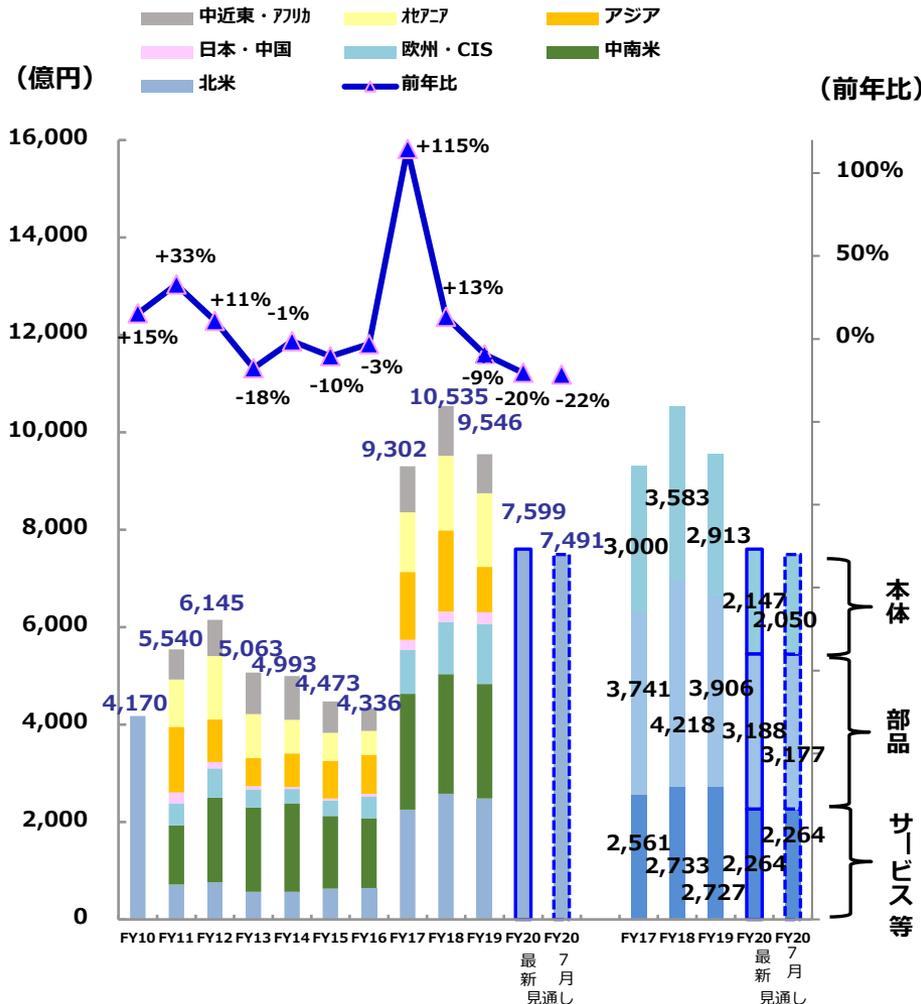
- ・ダンプトラック：75 t（HD785）以上 ・フルパワー：525HP（D375）以上
- ・エクスカベータ：200 t（PC2000）以上 ・ホイールローダー（機械駆動）：810HP（WA800）以上
- ・モーターローダー：280HP（GD825）以上

FY19実績：▲17%
FY20見通し(7月)：▲20%～▲10%(変更無し)

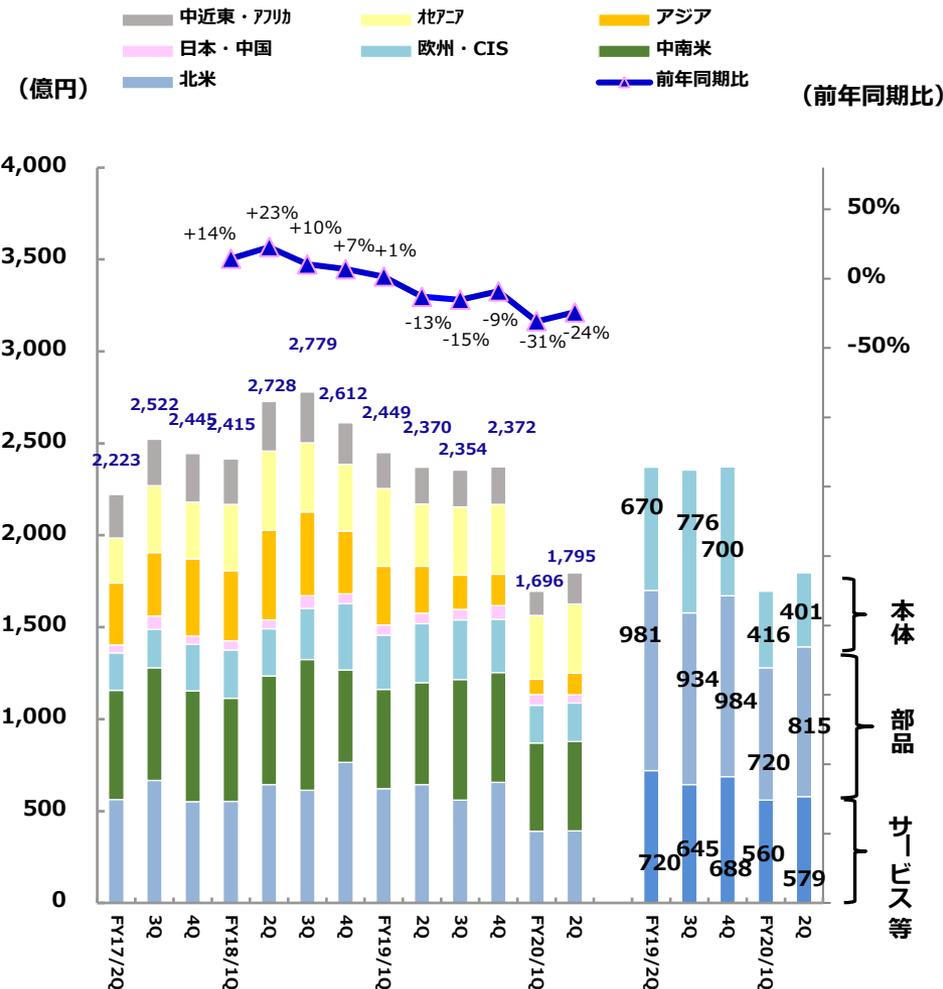


- ・2020年度第2四半期の売上高は、前年同期比▲24%減少の1,795億円。
- ・2020年度の売上高の見通しは前年比▲20%減少の7,599億円。
- ・為替の影響も含め、最新の状況を織り込み見通しを修正。

鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス等含む)

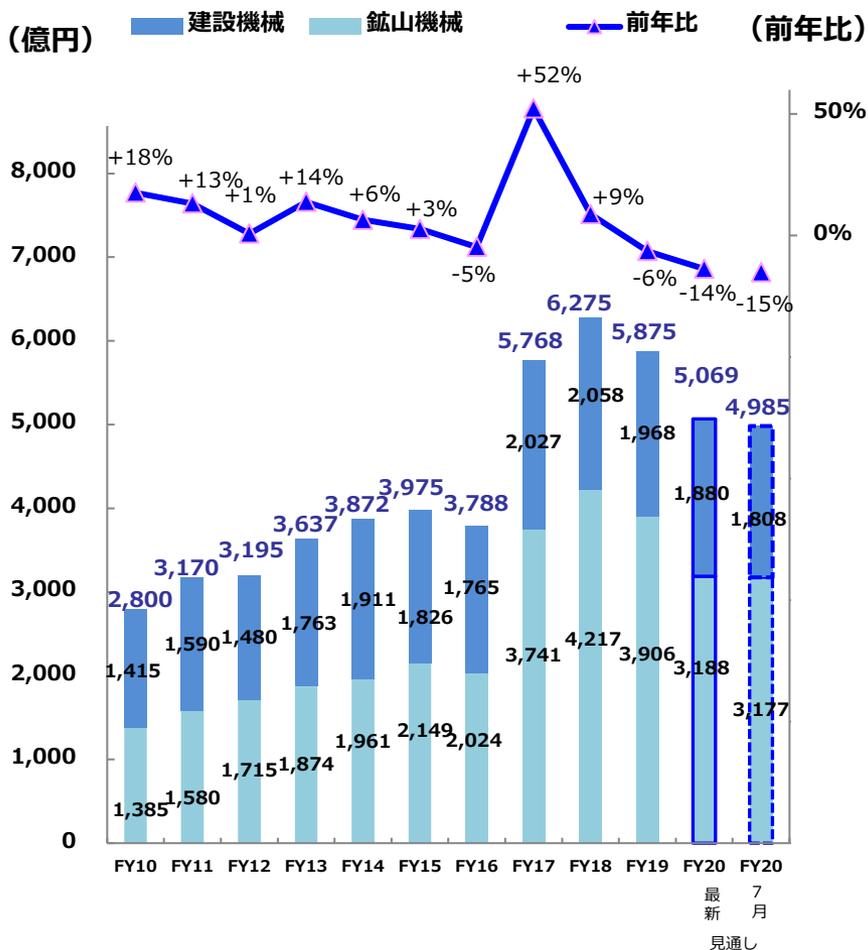


鉱山機械 四半期別売上高 (部品・サービス等含む)

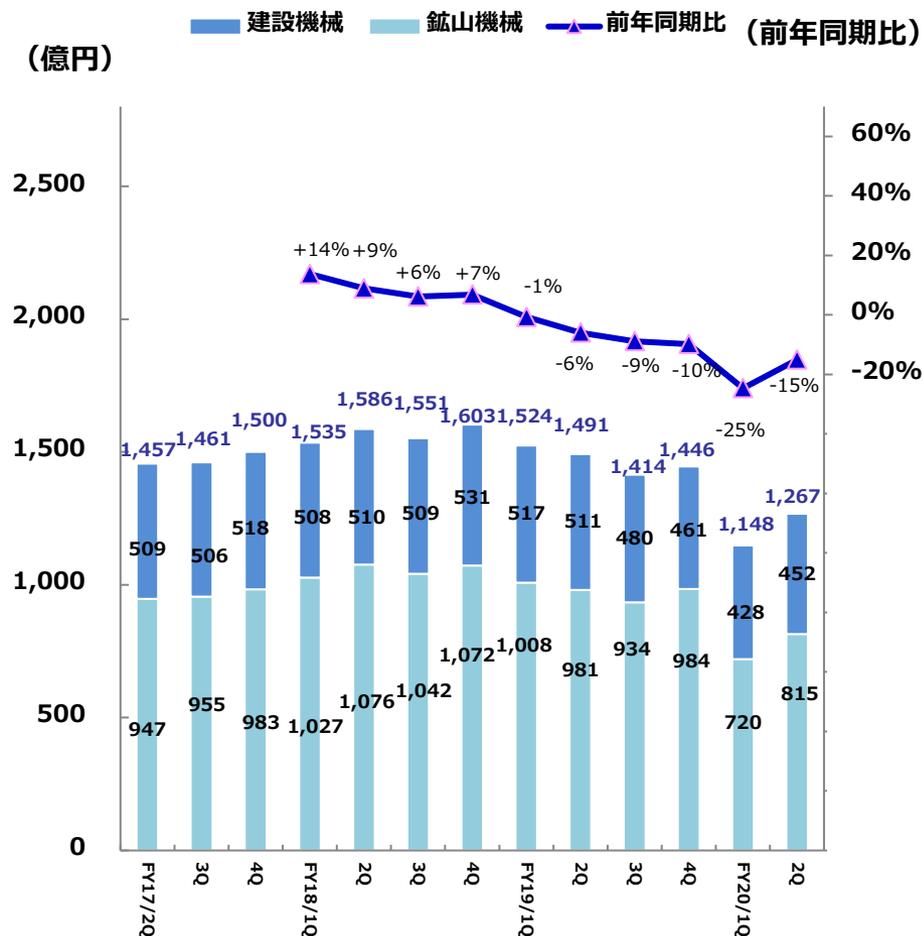


- ・ 2020年度第2四半期の部品売上高は、前年同期比▲15%減少の1,267億円。
- ・ 2020年度の部品売上高の見通しは前年比▲14%減少の5,069億円。
- ・ 為替の影響も含め、最新の状況を織り込み見通しを修正。

部品 年度別売上高



部品 四半期別売上高



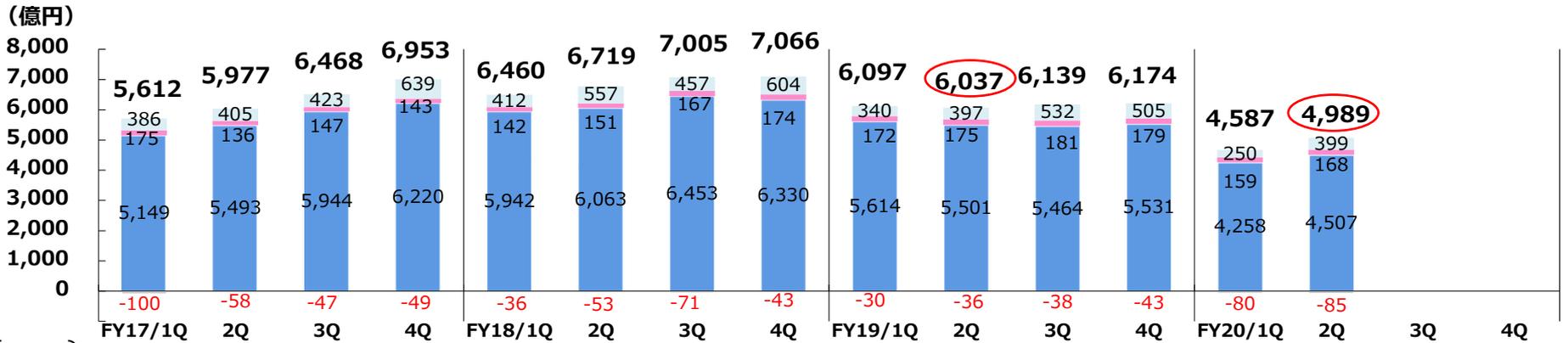
參考資料

項目	取組み	
ビジネス機会の 拡充	3密回避対策	建設機械：自動化、無人化、遠隔操作化 土木施工：現場のデジタル化
	中期経営計画 の推進	建設機械：DXスマートコンストラクションの拡大 鉱山機械：積み込み機の遠隔操作化の導入 マイニングプラットフォームの開発
働き方改革	デジタルマーケティングの推進 在宅勤務制度の適用拡大 オンライン会議などICTツールの積極的活用 社員の健康管理用にウェアラブルデバイスの配布検討	
ステークホルダー との対話方法の 見直し	オンラインによるIR活動 バーチャル株主総会実施の検討 社員ミーティングの開催方法見直し（小グループ化、リモート化）	

四半期毎の売上高と営業利益の推移

連結売上高 (FY17~)

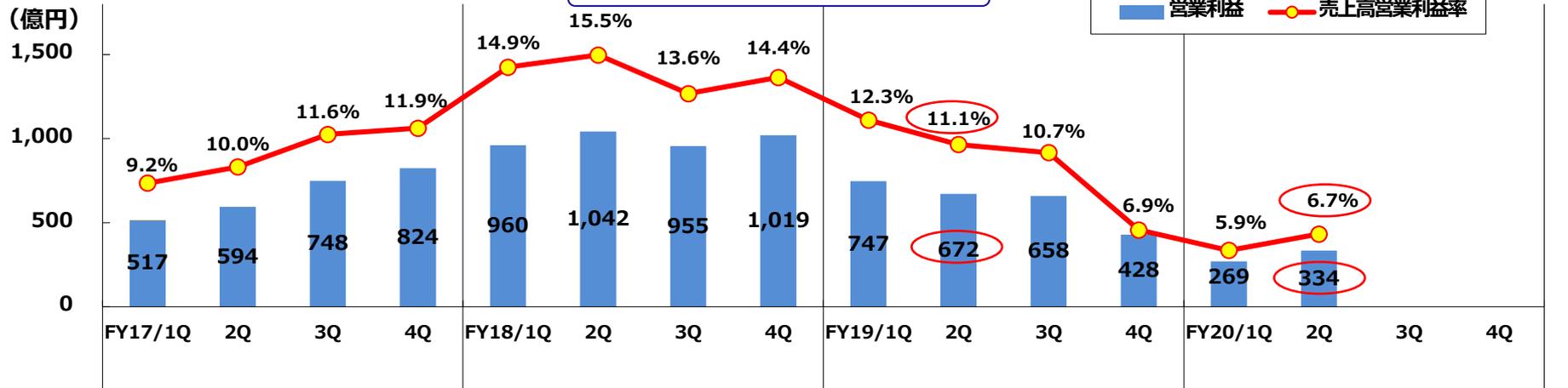
産業機械他 ■ リテールファイナンス ■ 建設機械・車両 ■ 消去



為替レート

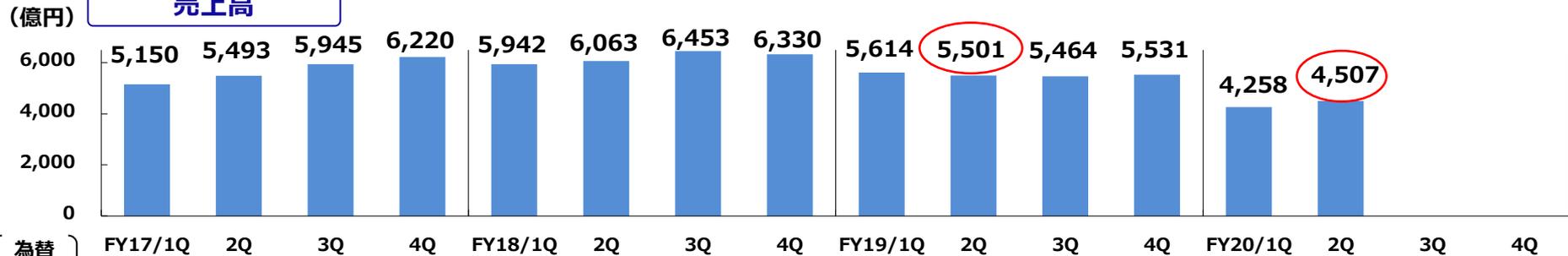
	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q	19/1Q	19/2Q	19/3Q	19/4Q	20/1Q	20/2Q	20/3Q	20/4Q
¥/USD	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2	113.5	109.4	110.0	107.9	108.6	108.1	107.5	106.7		
¥/EUR	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6	129.6	124.7	123.2	120.0	119.7	120.0	118.6	124.2		
¥/RMB	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4	16.4	16.2	16.2	15.5	15.4	15.5	15.1	15.3		

営業利益 (FY17~)



<建設機械・車両> 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

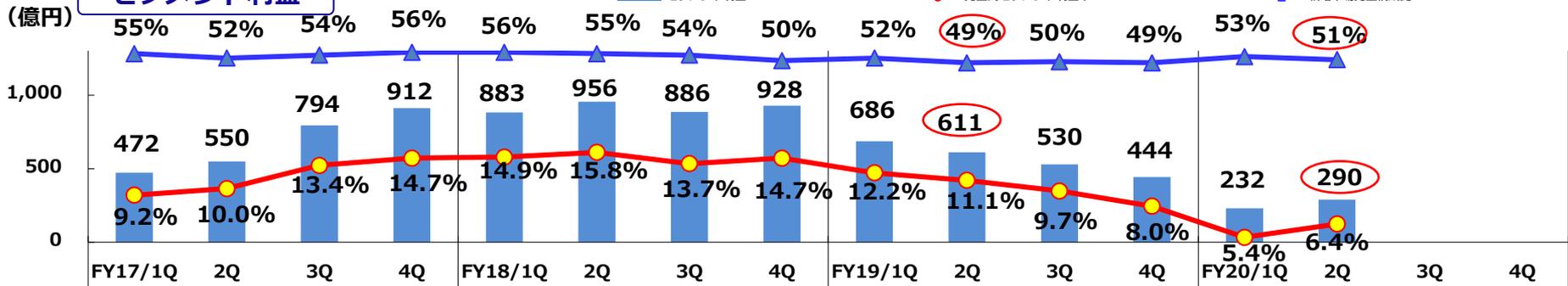
売上高



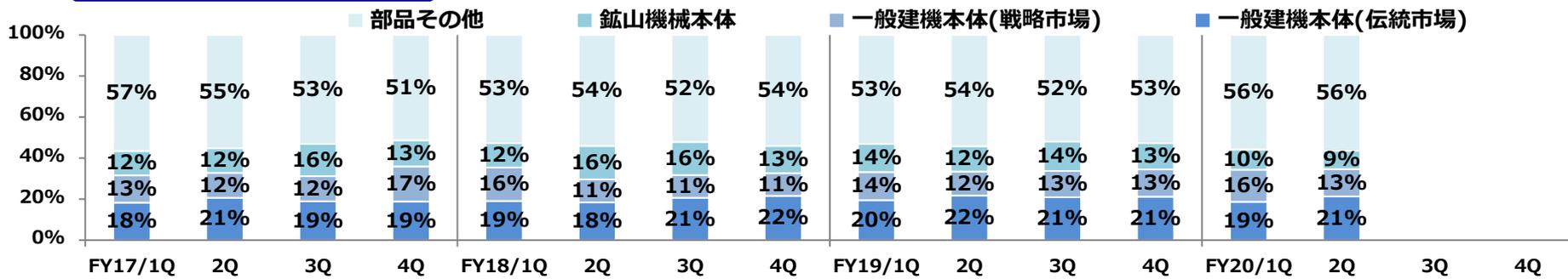
為替
レート

	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q	19/1Q	19/2Q	19/3Q	19/4Q	20/1Q	20/2Q	20/3Q	20/4Q
¥/USD	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2	113.5	109.4	110.0	107.9	108.6	108.1	107.5	106.7		
¥/EUR	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6	129.6	124.7	123.2	120.0	119.7	120.0	118.6	124.2		
¥/RMB	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4	16.4	16.2	16.2	15.5	15.4	15.5	15.1	15.3		

セグメント利益

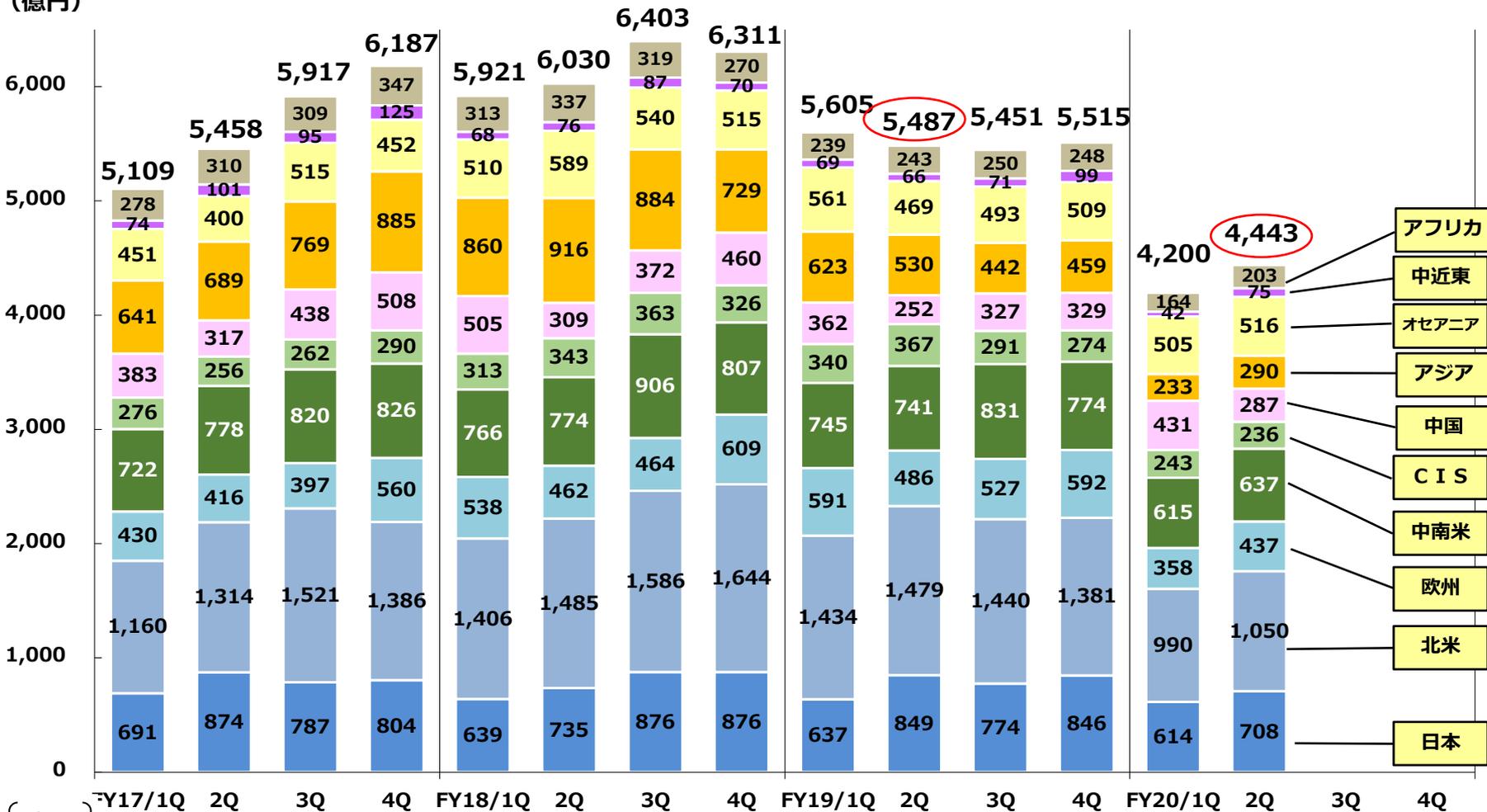


売上高構成比



<建設機械・車両> 四半期毎の地域別売上高（外部顧客向け）

(億円)

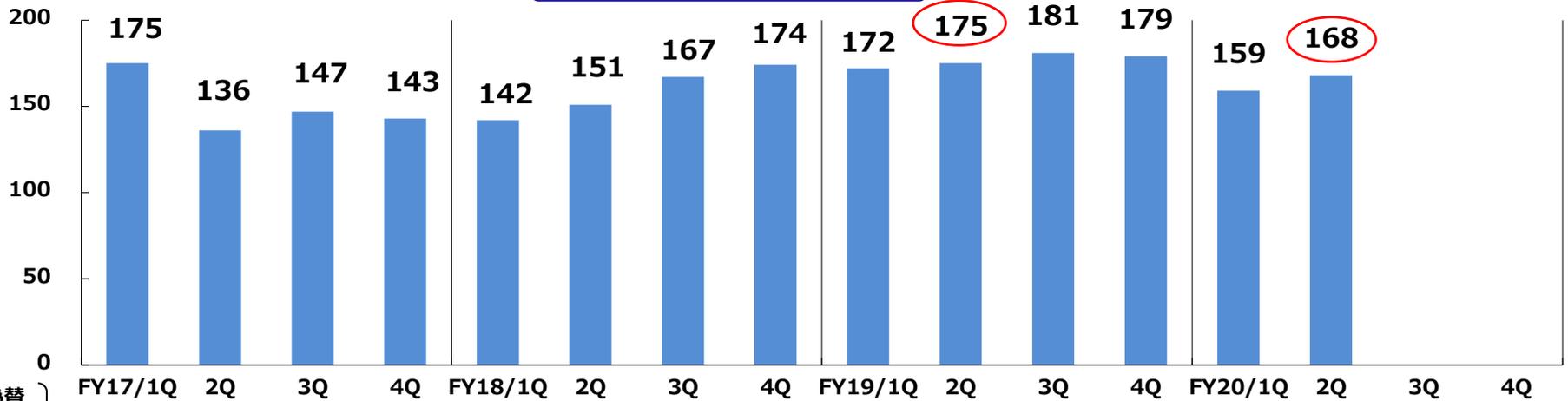


為替レート

	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q	19/1Q	19/2Q	19/3Q	19/4Q	20/1Q	20/2Q	20/3Q	20/4Q
¥/USD	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2	113.5	109.4	110.0	107.9	108.6	108.1	107.5	106.7		
¥/EUR	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6	129.6	124.7	123.2	120.0	119.7	120.0	118.6	124.2		
¥/RMB	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4	16.4	16.2	16.2	15.5	15.4	15.5	15.1	15.3		

(億円)

売上高

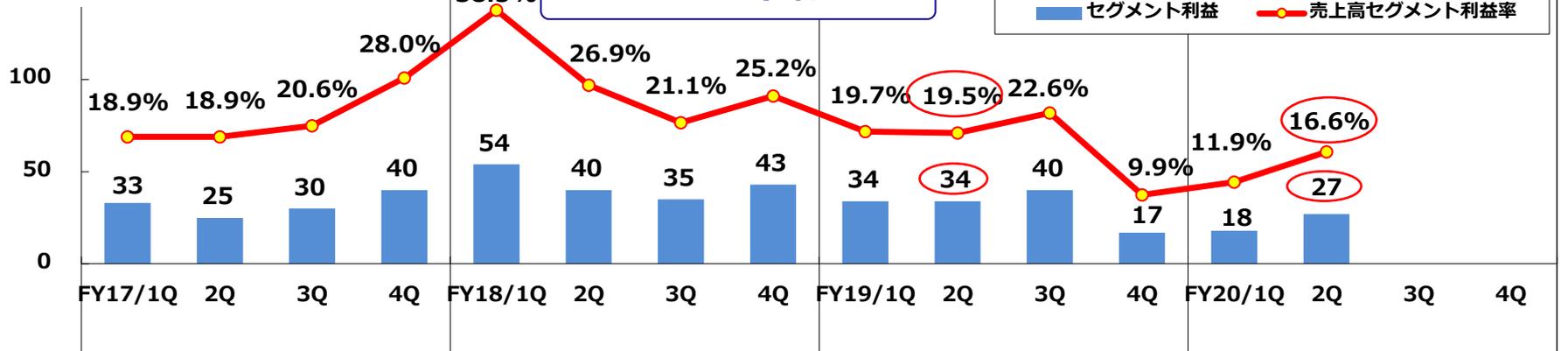


為替
レート

	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q	19/1Q	19/2Q	19/3Q	19/4Q	20/1Q	20/2Q	20/3Q	20/4Q
¥/USD	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2	113.5	109.4	110.0	107.9	108.6	108.1	107.5	106.7	-	-
¥/EUR	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6	129.6	124.7	123.2	120.0	119.7	120.0	118.6	124.2	-	-
¥/RMB	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4	16.4	16.2	16.2	15.5	15.4	15.5	15.1	15.3	-	-

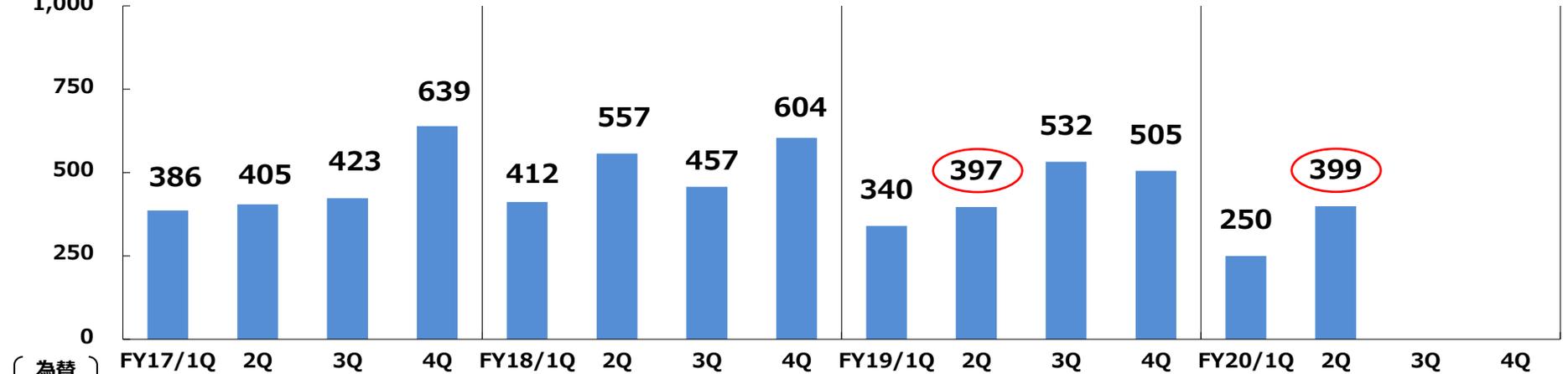
(億円)

セグメント利益



(億円)
1,000

売上高



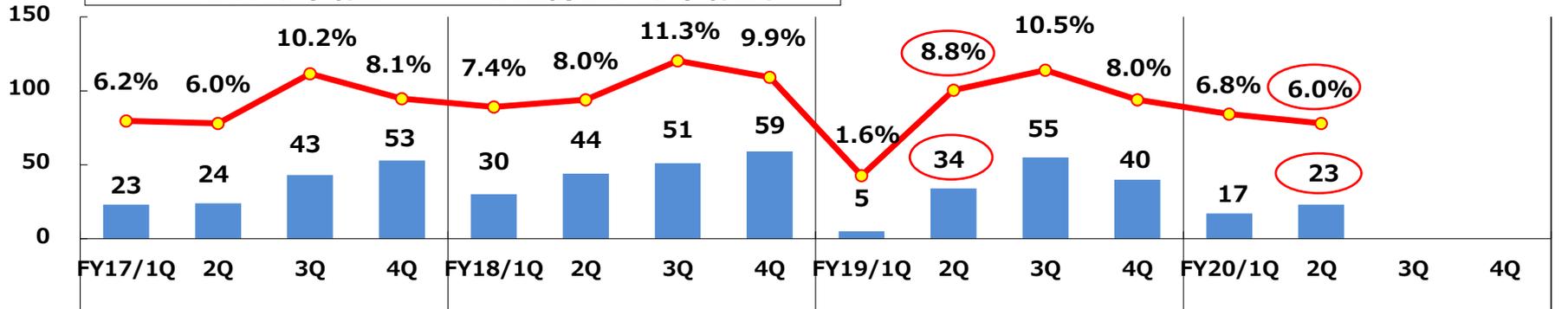
為替
レート

	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q	19/1Q	19/2Q	19/3Q	19/4Q	20/1Q	20/2Q	20/3Q	20/4Q
¥/USD	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2	113.5	109.4	110.0	107.9	108.6	108.1	107.5	106.7	-	-
¥/EUR	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6	129.6	124.7	123.2	120.0	119.7	120.0	118.6	124.2	-	-
¥/RMB	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4	16.4	16.2	16.2	15.5	15.4	15.5	15.1	15.3	-	-

セグメント利益

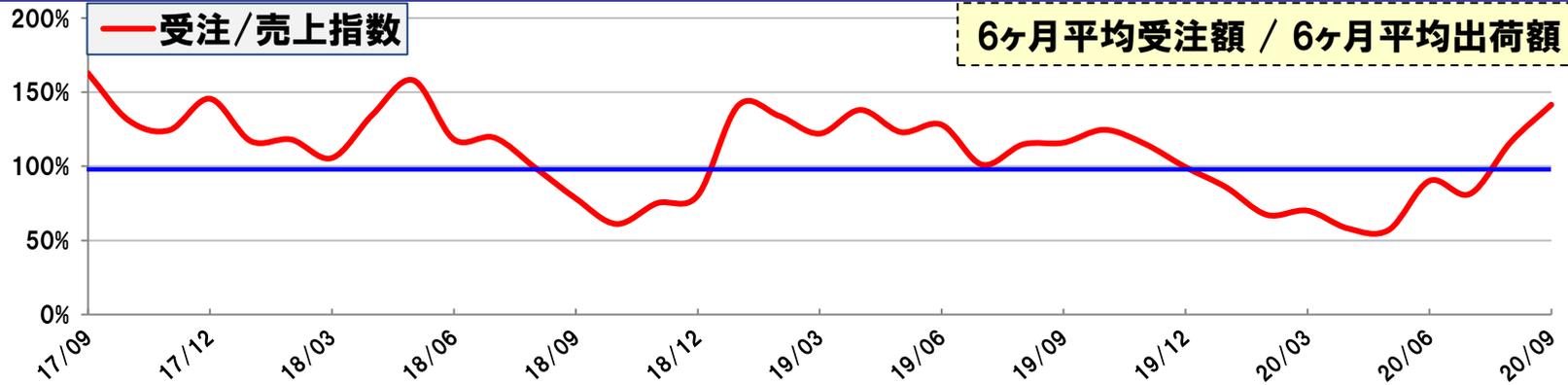
(億円)

■ セグメント利益 ● 売上高セグメント利益率



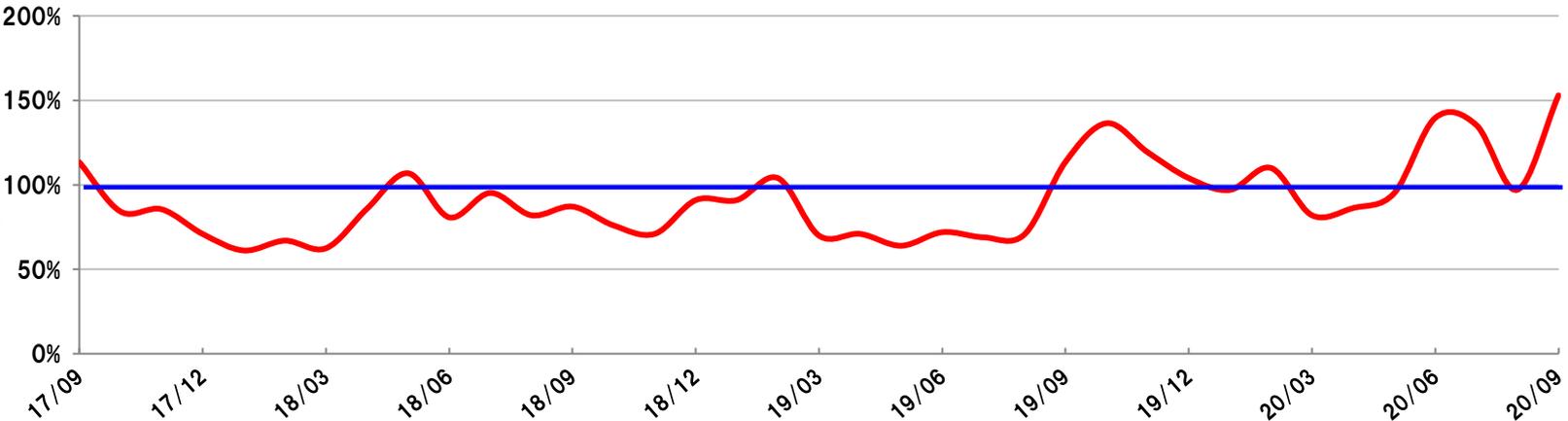
コマツアメリカ (マイニング)

730E, 830E
860E
930E, 960E
980E



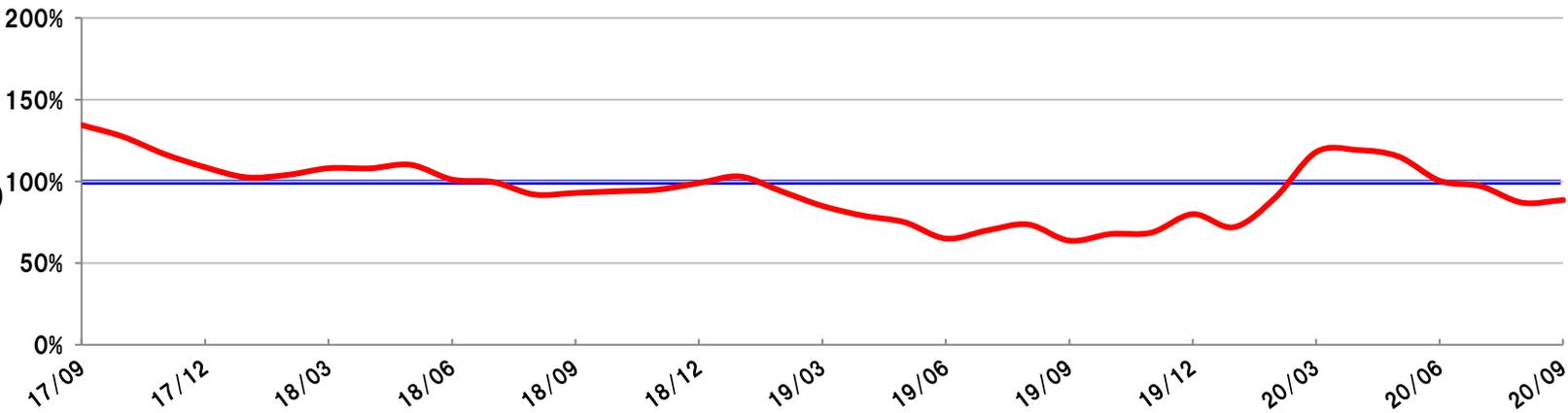
コマツドイツ (マイニング)

PC3000, PC4000
PC5500, PC7000
PC8000



コマツ単独 (マイニング)

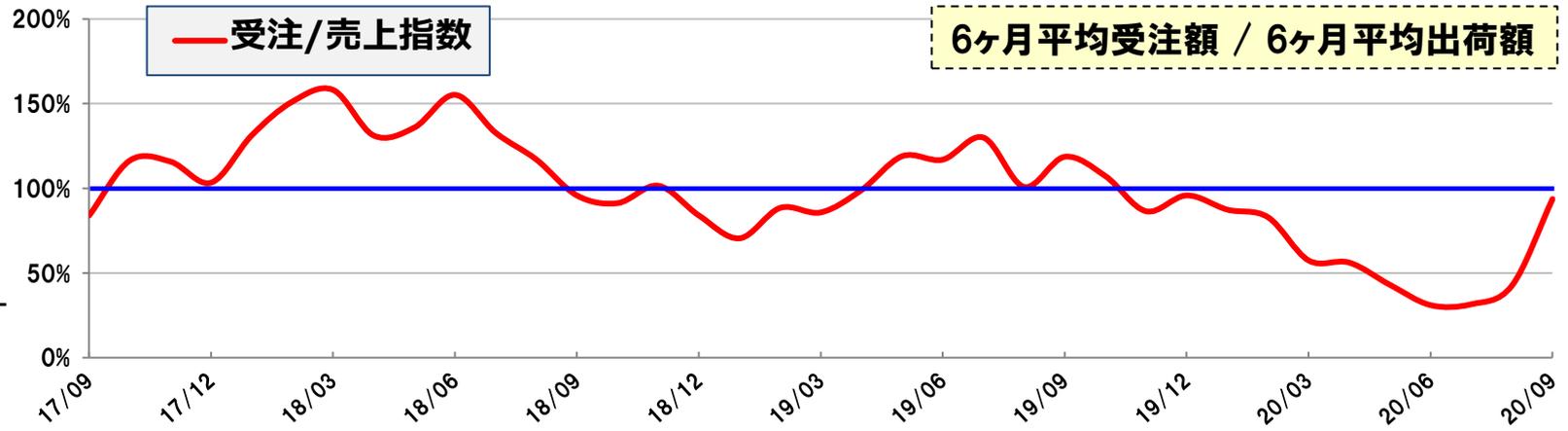
HD785, HD1500
PC2000, PC3000
PC4000
WA800 up
D375A up
GD825A up



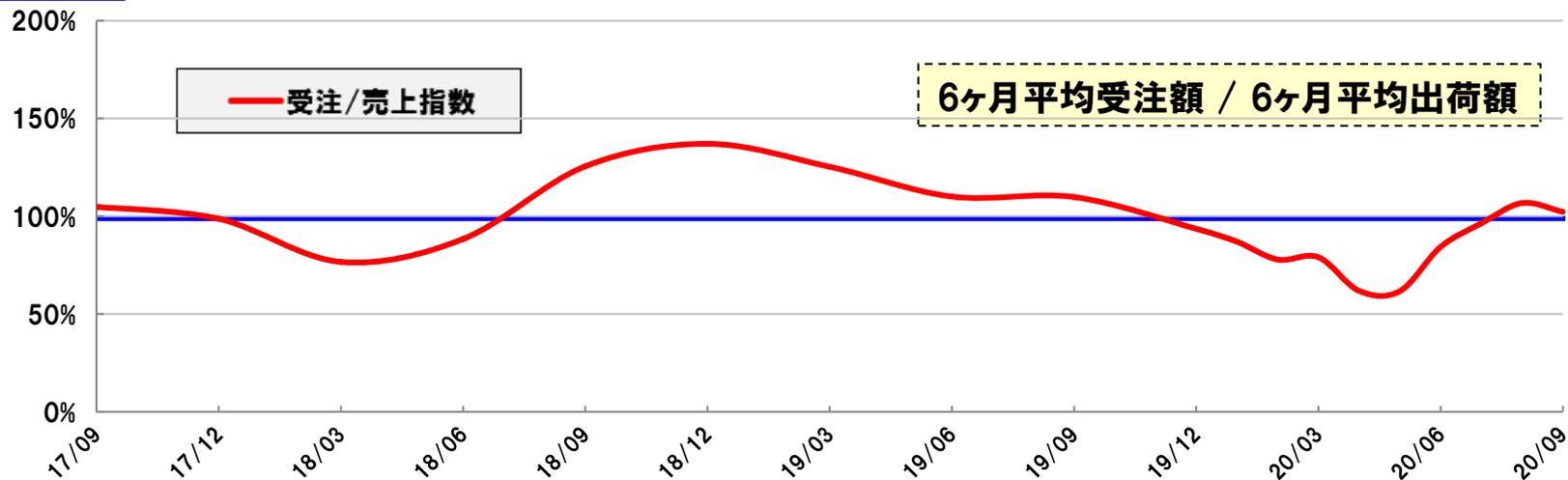
**KMC
(マイニング)**

<露天掘り>
ロープショベル
ブラストホールドリル
ドラグライン他

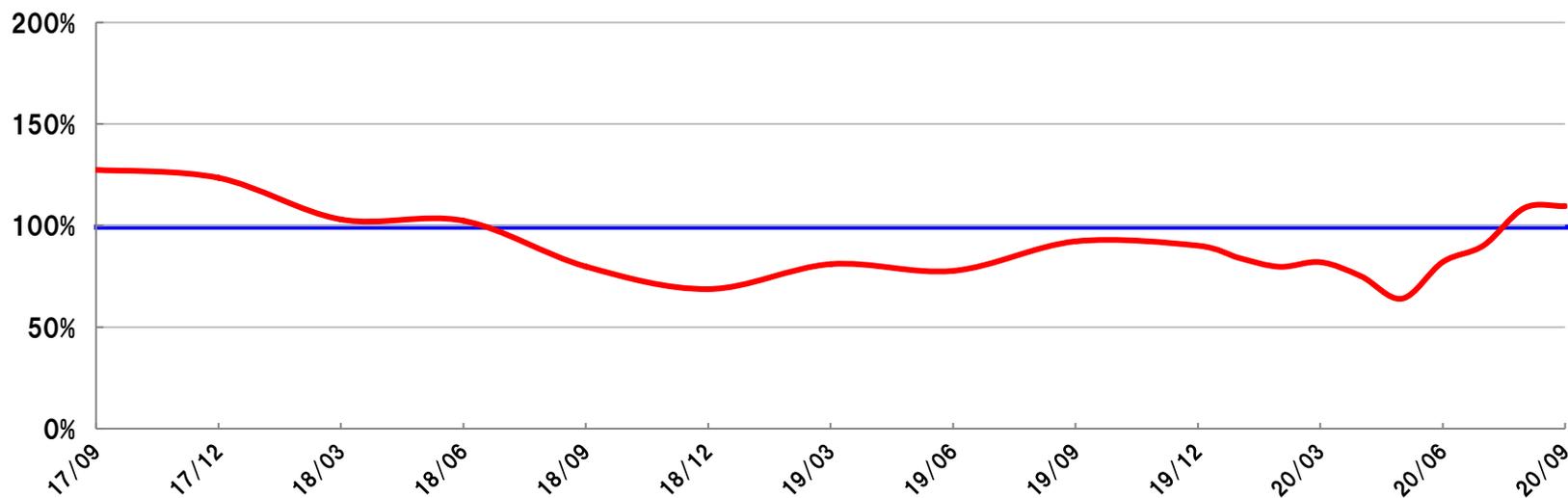
<坑内掘り>
コンティニューアスマイナ
シアラー
ロードホールダンプ
ドリルジャンボ他



コマツ産機

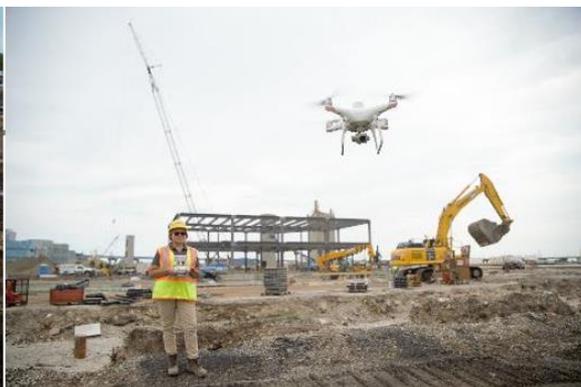


コマツNTC





- ・統一テーマは「環境」
- ・TCFDへの取り組みを紹介
- ・価値創造ストーリーとして
スマートコンストラクション、
林業機械ビジネスを特集
- ・ESG課題の解決への貢献度を
評価するための指標（KPI）に
対する2019年度実績を公表
- ・社長/CFOインタビューを掲載



KMC新本社工場建設地(米国ウィスコンシン州ミルウォーキー)



Drone Orthophoto from April 15, 2020

デジタルトランスフォーメーション・スマートコンストラクションによる「デジタルツイン」を実現した施工の様子

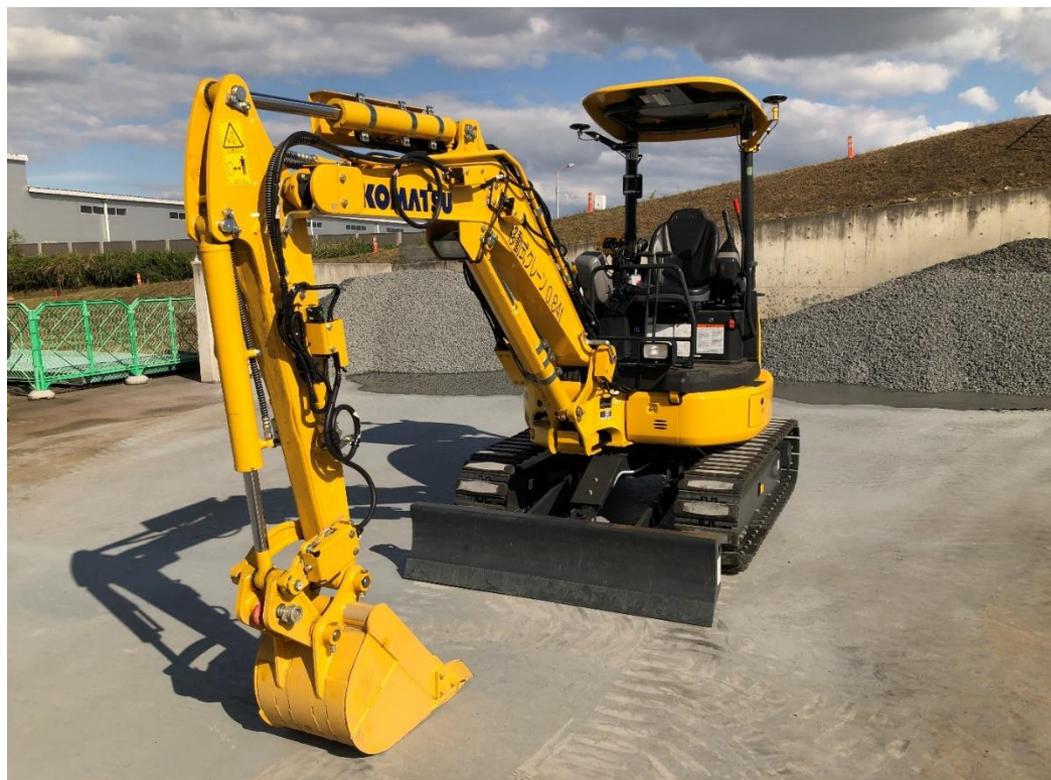


KMC新本社工場完成予想図

コマツマイニング株式会社は、デジタルトランスフォーメーション・スマートコンストラクションの技術を活用し、米国ウィスコンシン州ミルウォーキーの新本社工場移転の建設工事を本格的に開始しました。

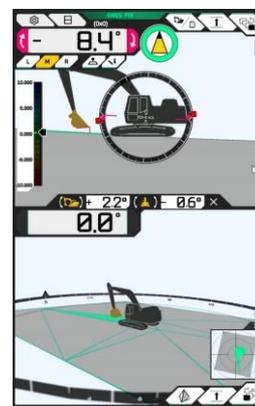
実際の現場とデジタル上でシミュレーションされた現場を同期させながら施工を最適化する「デジタルツイン」を実現することで、現場の生産性や安全性の向上とともに、新型コロナウイルス感染拡大の防止に貢献しています。

既存の従来型建機に、ICT機能を提供する後付けキット「スマートコンストラクション・レトロフィットキット」を、2020年11月よりミニショベルにも対象機種を拡大し国内市場へ導入します。



3Dマシンガイダンス

ペイロードメータ



2020年11月~KCSJレンタル機で導入開始



DX銘柄2020
Digital Transformation

経済産業省と東京証券取引所が共同で選定する「デジタルトランスフォーメーション銘柄(DX銘柄)」企業(35社)の中から、“デジタル時代を先導する企業”として「DXグランプリ2020」(2社)に選定されました。

(2020年8月26日ニュースリリース)

【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあります。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。



公益財団法人 日本生産性本部が主催する「第3回日本サービス大賞」で、当社の土木建設サービス全体のデジタル業態革新「スマートコンストラクション」が内閣総理大臣賞を受賞しました。

(2020年10月27日ニュースリリース)